

目 次

は じ め に	2
I 博物館概要	
○設置目的	3
○基本的性格と方針	3
○沿革	4
○施設・設備	5
II 平成8年度 組織・運営	
○組織	7
○事業計画	7
III 平成7年度のあゆみ	
○職員	9
○日誌抄	10
○岐阜県博物館協議会	10
○実施事業の概要	11
○マイ・ミュージアムのオープンの記録	12
○展示の入れ替え	13
○特別展	
1 「岐阜の淡水魚」	14
2 「美濃・飛驒の古代史発掘 ～律令国家の時代～」	15
○入定三百年記念展 「円空展」	16
○資料紹介展	
1 南米ボリビアの三葉虫	17
2 岐阜とユタ州の恐竜	18
○特別陳列 ふるさとの文化財紹介展	19
○調査研究・資料収集活動	
自然部門	20
人文部門	24
○教育普及活動	25
○マイ・ミュージアム	29
○図書資料寄贈者芳名一覧	31
○利用状況	34
○博物館関係団体	34
IV 利用案内	

は じ め に

平成7年度は、博物館新時代の幕開けの年でした。

7月に、新館「マイ・ミュージアム」ならびに「マルチメディア情報センター」が開館しました。これを契機に博物館をさらに開放・参加・創造型の文化、情報の発信、交流の拠点として、県民の皆様に気軽に来て、「博物館づくり」に参加していただけるように努めています。この方針を「博物館運営五則」としてまとめ、新館のエントランスに掲げています。

県民のコレクションを展示するマイミュージアムギャラリー、世界初のハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」が検索できるハイビジョンホール、紀行情報を自由に検索し遊びながら学習できるマルチメディアスタジオ、自由にハイビジョン静止画ソフトが制作できるマルチメディア工房、それぞれ好評をいただいております。

県民の幅広い参加、創造の一つとして、多数の博物館同人、博物館サポーターの多様な活動を受けております。

7年度は、特別展「岐阜の淡水魚」、「美濃・飛驒の古代史発掘」さらに岐阜県民文化祭の一環として、名古屋市との共催で「入定三百年記念『円空展』」、また特別陳列「ふるさとの文化財紹介展―岐阜地区―」を開催し、それぞれ時宜に適した展示として好評を博しました。

資料紹介展は、ボリビア大使夫妻を招聘して「南米ボリビアの三葉虫」、ユタ州ブリガムヤング大学付属博物館のスタッドマン氏を招請して「岐阜とユタ州の恐竜」などを開催し、国際交流活動も進みました。

恐竜化石調査団の調査研究も、荘川、白川村から神岡町、上宝村へと地域を拡大して進め、成果をあげました。

平成8年度は、開館20周年記念展「恐竜のふるさとユタ」、飛驒美濃合併120周年記念展「岐阜県の明治維新」、資料紹介展「海拔0mから3000mへの旅」、特別陳列「ふるさとの文化財紹介展―美濃地区―」、さらにマイミュージアムギャラリーの展示を8回企画し、多彩で楽しく、質の高い展示になるよう努めています。

教育普及活動も、「恐竜ゼミナールGIFU'96 in KAMITAKARA」などのほか、親子対象の「たのしい博物館」と、一般向けの「博物館講座」の二本立てにして、幼児から高齢者までだれもが楽しめる生涯学習の場を提供していきます。また、マルチメディア工房の利用促進を図り、情報交流の施設、設備の充実を進めていきます。

ここに、平成7年度の事業の記録と平成8年度の事業計画の概要を紹介する館報第19号を刊行しました。御高覧いただき、県民の博物館の充実発展に御支援、御指導を賜りますようお願いします。

平成8年4月1日

岐阜県博物館長 清水 廣 美

I 博 物 館 概 要

〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て、新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

〔基本的性格と方針〕

1 基本的性格

- ・ 岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）・自然（動物、植物、地学）等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究およびそれらの活用を図る総合博物館とする。
- ・ 県内外の博物館および相当施設との活発な交流を図るとともに、本県の中央博物館としての役割を果たす内容と設備を有する施設とする。
- ・ 学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への研究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。
- ・ 「ハイパーハイビジョン風土記」を主とした博物館情報を制作し、マルチメディアシステムによる情報の収集、加工、発信、受信を行い、情報化社会に対応した博物館を目指す。
- ・ 資料の収集および保存並びに展示に関する専門的な調査研究を推進する。

2 基本方針

(1) 資料収集

県内の人文・自然等に関する資料を収集する。
資料は、実物を中心とするが、必要に応じて厳密な考証に基づく復元模型を含める。
寄贈、寄託、借用、購入等により収集する。

(2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。
常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の2部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるよう平易な展示を心掛け、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度なものとする。
特別展示は、特定の企画とテーマを設けて、展示をする。

展示の方法は、(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示 (イ)資料の単なる羅列ではなくストーリー性のある展示 (ウ)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示 (エ)できる限り実物資料の展示をするが、更に、図表、模型等多種

類の資料も活用 (オ)視聴覚機器などを取り入れ、見る人に強く訴える設備 (カ)明確で分かりやすい解説とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

○人文展示室1（人文総合展示）

主題「郷土のあゆみ」一原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色を分かりやすく展示する。

○人文展示室2（人文課題展示）

主題「郷土の民俗と美術工芸」一特色ある郷土の民俗と美術工芸を部門別、時代別に展示する。

○自然展示室1（自然総合展示）

主題「郷土の自然とおいたち」一郷土の自然の概要を生態的に分かりやすく展示する。

○自然展示室2（自然課題展示）

主題「郷土のさまざまな自然」一特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

○特別展示室（特別展示）

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

(3) 調査研究

- ・ 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行う。
- ・ 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行う。

(4) マイ・ミュージアム(マルチメディア情報センター)

・マイミュージアムギャラリー

個人などによって収集、所蔵されているコレクションを公開展示する。また、生涯学習の成果発表の場など多様な活用を図り、県民文化の交流の拠点とする。

・ハイビジョンホール

ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」により、岐阜県の歴史、文化、産業、自然などをハイビジョンで提供するほか、各種のハイビジョンソフトやハイビジョン放送を放映する。また、マルチメディア情報機器を活用し、各種の講演、研修会等の場とする。

・マルチメディアスタジオ

ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」を一人ひとりが自在に検索し、楽しみながら学習できる場とする。

また、マルチメディア機器の利用提供や技術的支援により県民のソフトづくりの工房(“マルチメディア工房・ぎふ”)としての役割を拡大する。

〔沿革〕

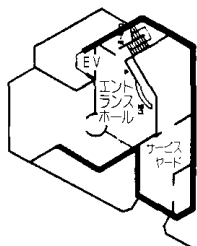
昭和46年 3 月	岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定	10月	特別展「郷土の生んだ先覚者」	4 月	特別展「ふるさとの木の文化」
		昭和49年 4 月	特別展「濃飛の戦国武将」	7 月	特別展「ふるさとの哺乳動物」
4 月	教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置	7 月	特別展「ふるさとの昆虫」	10月	置県120年・岐阜鹿児島姉妹県盟約20周年記念展「鹿児島—その自然と歴史—」
6 ～ 9 月	博物館懇談会を設ける	8 月	入館者90万人を突破	11月	入館者140万人を突破
昭和47年 4 月	博物館開設準備室を設置	10月	学習ビデオスタジオコーナー設置	平成 4 年 3 月	岐阜県博物館協議会より「新しい時代・県民ニーズに対応する博物館の在り方について」答申
	展示委員会を設ける	昭和60年 4 月	特別展「濃飛の蘭学」	4 月	特別展「飛驒のあけぼの 交流する縄文・古代人」
昭和48年 8 月	起工式挙行	7 月	特別展「縄飛の縄文時代」	7 月	特別展「恐竜王国・恐竜一謎とロマン—」
昭和49年 3 月	展示実施計画樹立	10月	特別展「美濃の刀剣」	10月	特別展「近世に輝く濃飛の群像」
10月	定礎式		入館者100万人を突破	平成 5 年 3 月	入館者150万人を突破
昭和50年 3 月	展示工事着手	12月	自然展示室Ⅱを改装	4 月	特別展「土と炎の芸術」
7 月	本館建築竣工	昭和61年 4 月	特別展「徳山の四季とくらし」	9 月	29日大型は乳類足跡化石を美濃加茂市で発掘
昭和51年 1 月	展示工事完了	7 月	特別展「奥飛驒の自然」	10月	特別展「失われゆく植物」
4 月	岐阜県博物館条例公布	9 月	人文展示室Ⅰを改装	11月	「ハイパー・ハイビジョン風土記」イメージシュミレーションソフトの完成
	岐阜県博物館設置	10月	開館10周年記念式典を挙行	平成 6 年 1 月	20日マイ・ミュージアム棟起工式
	展示資料等製作完了		開館10周年記念展「ふるさとの祭り」	3 月	大型は乳類足跡化石を展示
5 月	開館記念式典挙行 一般公開	昭和62年 4 月	特別展「濃飛の弥生時代」	4 月	特別展「川に生きる 一水運と漁労」
	「巨匠三人展」・「スポーツ栄光展」		入館者110万人を突破	8 月	恐竜の歯等荘川村で発見
7 月	皇太子・同妃殿下行啓	7 月	特別展「外国から侵入した生きものたち」	9 月	特別展「美濃山地の自然」
8 月	特別展「ふるさとの文楽」	10月	特別展「飛驒の匠」	10月	入館者160万人を突破
	入館者10万人を突破		旧徳山村民家移築復元	12月	ユタ州訪問（花フェスタ'95展示化石の借用、交流の推進）
10月	入館料徴収開始	昭和63年 1 月	自然展示室Ⅰを改装	平成 7 年 3 月	マイ・ミュージアム棟工事の完成
11月	特別展「熊谷守一展」	4 月	特別展示室ショーケース改修		ハイパー・ハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」美濃路編ソフト完成
昭和52年 5 月	特別展「日本伝統工芸秀作展」	7 月	特別展「ふるさとの湿原」	4 月	特別展「岐阜の淡水魚」
	入館者20万人を突破		中部未来博'88記念展「中山道—美濃十六宿—」	7 月	花フェスタ'95にユタ州恐竜化石を展示
7 月	特別展「郷土の化石展」	10月	特別展「中生代の化石」	7 月	マイ・ミュージアム（マルチメディア情報センター）落成式典挙行 一般公開
11月	特別展「鉄斎」		入館者120万人を突破	8 月	恐竜ゼミナールGIFU'95開催
昭和53年 4 月	入館者30万人を突破	平成 元年 4 月	特別展「濃飛の古墳時代」	10月	特別展「美濃・飛驒の古代史発掘 律令国家の時代—」
	特別展「濃飛の甲冑」	7 月	特別展「ふるさとの野鳥」		入定三百年記念「円空展」（名古屋市と共催）
7 月	特別展「世界のコガネムシ」	8 月	16日恐竜足跡化石白川村で発見	10月	県下第1号として「マルチメディア」工房・ぎふ」開設
10月	特別展「能面と装束」		特別展「移ろいゆく年中行事」	11月	円空シンポジウム「世界における円空」
昭和54年 4 月	入館者40万人突破	10月	特別展「濃飛の先史時代」		
	特別展「濃飛の先史時代」	11月	特別展「世界の貝」		
7 月	特別展「世界の貝」		特別展「濃飛の文人」		
10月	特別展「濃飛の文人」		「視覚障害者（触察）コーナー」開設		
11月	「視覚障害者（触察）コーナー」開設	平成 2 年 4 月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」		
昭和55年 4 月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」	7 月	特別展「輪中と治水」		
5 月	入館者50万人を突破		特別展「白山の自然」		
7 月	特別展「化石の世界」		「恐竜足跡化石レプレカ」除幕式		
10月	特別展「養虫山人」		グリーンアドベンチャー標識設置（「自然観察のこみち」に）		
昭和56年 4 月	特別展「美濃の絵馬」		岐阜県博物館協議会に「新しい時代・県民ニーズに対応できる博物館の在り方について」諮問		
5 月	入館者60万人を突破		入館者130万人を突破		
7 月	特別展「御岳山は生きている」	10月	特別展「濃飛の仏像」		
10月	特別展「ふるさとの美濃古陶」	12月	岐阜県博物館協議会から中間答申		
昭和57年 4 月	特別展「高賀山の信仰」	平成 3 年 3 月	岐阜県博物館案内標識を設置		
	入館者70万人突破				
7 月	特別展「ふるさとの植物」				
10月	特別展「東洋の貨幣」				
昭和58年 4 月	特別展「岐阜県の考古遺物」				
5 月	入館者80万人を突破				
7 月	特別展「長良川」				

〔施設・設備〕

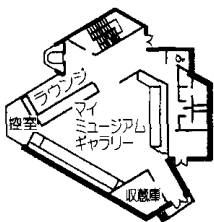
1 博物館

調整室 (ホール吹抜き)

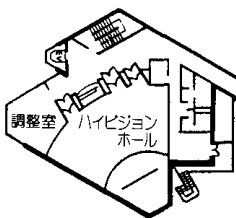
マイ・ミュージアム
1階



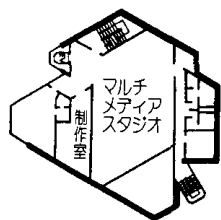
マイ・ミュージアム
2階



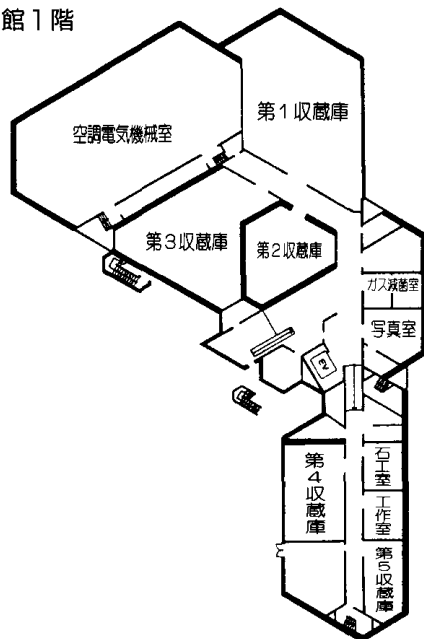
マイ・ミュージアム
3階



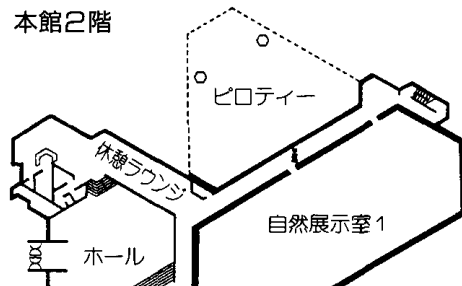
マイ・ミュージアム
4階



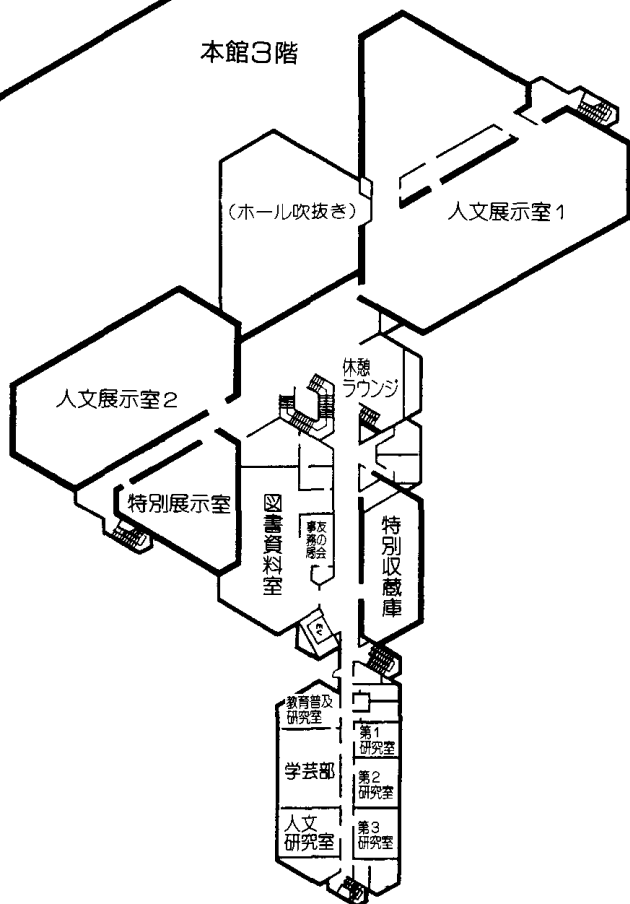
本館1階



本館2階



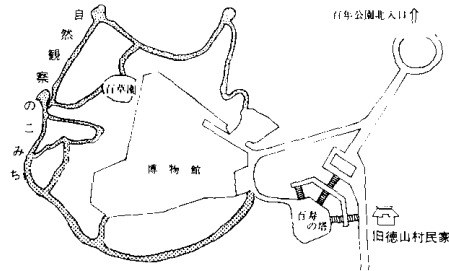
本館3階



・主要室名及び面積

本館	室名	面積(m ²)	マイミュージアム	室名	面積(m ²)
1階	第1収蔵庫	314.1	1階	エントランスホール	76.0
	第2収蔵庫	126.0		マイミュージアムギャラリー	202.3
	第3収蔵庫	192.0	2階	収蔵庫	25.3
	第4収蔵庫	99.4		控室	18.5
	第5収蔵庫	55.0	3階	ハイビジョンホール	192.3
2階	自然展示室I	583.8	4階	調整室	47.0
	自然展示室II	478.8		マルチメディアスタジオ	206.3
	郷土学習室	95.4		制作室	31.2
	講義室	174.5		応接室	43.8
	研修室	93.2			
3階	第6収蔵庫	142.8			
	人文展示室I	942.2			
	人文展示室II	478.8			
	特別展示室	193.2			
	図書資料室	232.0			
	特別収蔵庫	142.8			

2 館外施設



(1) 自然観察のこみち

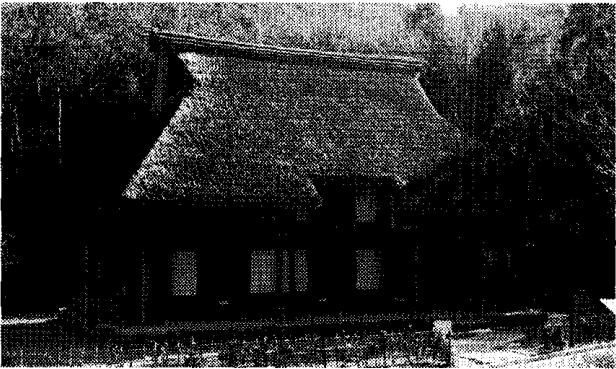
館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中に生きた展示として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

全長約830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

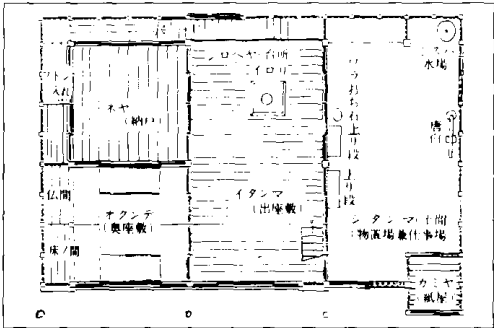
なお、樹林の特徴などが学習できるようグリーンアドベンチャー常設コースとして、40本の樹木にQ&Aパネルを設置している。

(2) 旧徳山村民家

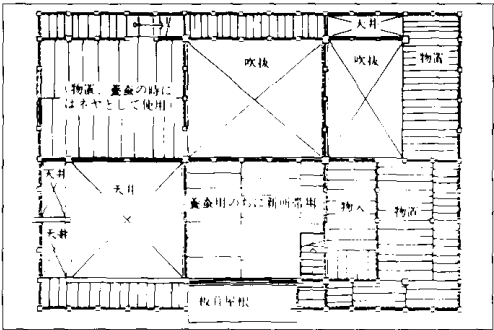
徳山ダム建設計画に伴い、徳山村は閉村となり藤橋村になったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具なども展示し、無料開放している。



- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 ブナ・トチ
- ・建面積 120.97㎡
- ・延面積 197.48㎡
- ・間取り 下図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



▲ 1階間取り図



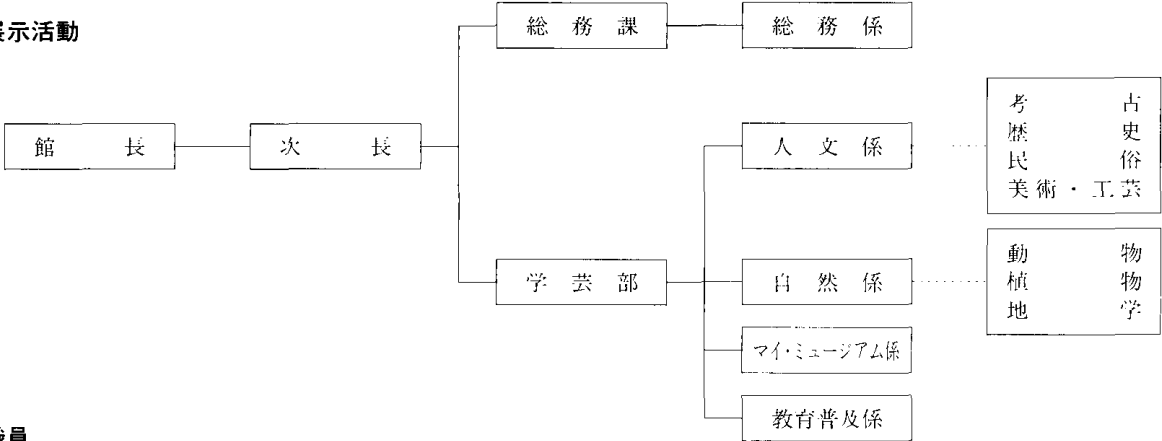
▲ 2階間取り図

II 平成 8 年度 組織・運営

〔事業計画〕

平成 8 年 4 月現在

1 展示活動



2 職員

職 名(担当)	氏 名	職 名(担当)	氏 名	職 名(担当)	氏 名
館 長	清水 廣美	〔学芸部〕		(併)課 長 補 佐	田 中 義 夫
次 長 兼 総 務 課 長	伊 藤 金 夫	学 芸 部 長	小 林 秀 臣	学 芸 主 事	岩 田 正 雄
〔総務課〕		課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	富 田 幸 八	"	大 澤 洋 司
課 長 補 佐 兼 総 務 係 長	岩 田 千 恵 子	(兼)課 長 補 佐(民俗)	曾 我 孝 司	"	熊 崎 康 文
主 任	小 寺 弘 春	課 長 補 佐(歴史)	渡 邊 育 也	学 芸 嘱 託 員	田 口 浩 吉
"	古 田 光 学	学 芸 主 事(考古)	大 塚 章 一	課 長 補 佐 兼 教 育 普 及 係 長	今 津 利 治
主 事	酒 井 美 奈	主 事(美術工芸)	岩 佐 伸 次	(兼)学 芸 主 事	三 尾 寛 次
"	永 田 昌 隆	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	鹿 野 勘 次 司	学 芸 嘱 託 員	小 原 克 朗
業 務 嘱 託 員	古 野 村 美 保 子	課 長 補 佐(地学)	川 合 康 章	"	山 田 喜 三
"	龜 山 綾 子	学 芸 主 事(植物)	井 上 好 一		
"	田 代 千 津 子	主 事(動物)	説 田 健 一		
"	竹 内 寿 子	学 芸 嘱 託 員(地学)	梅 澤 貴 司		
"	池 村 る み	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	小 串 幸 作		
"	市 原 麻 利 子	課 長 補 佐			

〔事業計画〕

1 展示活動

展 示 名	期 間	主 な 展 示 内 容
常 設 展		自然展示室は「郷土の自然と私たち」「郷土のさまざまな自然」をテーマに岐阜県の大地ができたようす、郷土の自然のあらまし、ふるさとの動物・植物・岩石等を展示。人文展示室は「郷土のあゆみ」と「郷土の民俗と美術工芸」をテーマに郷土の原始時代から現在に至る歴史的な遺産や伝統的美術工芸品等を紹介。
資 料 紹 介 展 「海拔 0 m から 3000 m への旅」	4 / 20 ~ 6 / 2	標高 3000 m の高山帯から海拔 0 m まで広がる岐阜県の変化に富んだ自然を、気候や地質、そしてそこに生活する動物、植物のようすを中心に紹介する。
岐阜県文化財保護センター 速報展 「よみがえる縄文の世界」	6 / 11 ~ 6 / 27	岐阜県文化財保護センターが旧徳山村で調査・研究した成果を、発掘した貴重な考古資料をもとに紹介する。
開 館 20 周 年 記 念 展 「恐竜のふるさとユタ」	7 / 16 ~ 9 / 8	岐阜県と友好関係にあるユタ州の自然とくに恐竜について、ユタ州の化石を中心に展示する。あわせて、現在のユタ州のようすを紹介する。
飛騨美濃合併 120 周年記念展 「岐阜県の明治維新」	10 / 8 ~ 11 / 17	岐阜県の明治維新の時代を、飛騨と美濃の合併の背景や西洋文明の導入のようす、自由民権運動の盛衰そして近代産業の芽生えなどの観点から紹介する。
特 別 陳 列 「ふるさとの文化財紹介展」	2 / 6 ~ 3 / 23	岐阜県下各市町村に所在する国や県指定の文化財をはじめとした優れた文化遺産を、シリーズ企画で紹介する。本年度は美濃地区を対象とする。
マイミュージアムギャラリー		県民の収集、保管してきたコレクションを期間を決めて展示する。

2 教育普及事業

事業名	期日	対象	定員	内 容
記念展講演会	8/11			「北アメリカの恐竜」
	8/18			国立科学博物館古生物第3研究室長 富田 幸光氏
				「アメリカ恐竜最前線」
	10/27			ブリガムヤング大学附属地球科学博物館ケネス・リー・スタッドマン氏 「明治維新と飛騨」 岐阜大学教授 松田 之利氏
文化講演会	11/16		500	「明治・大正・昭和三代の海軍を語る」 作家 阿川弘之氏 「岐阜県と私」 作家 山田智彦氏 場所：県民文化ホール 未来会館
記念講演会	6/16			「よみがえる縄文の世界(徳山村)」 愛知学院大学教授 大参義一氏他
博物館講座	5/5	高校生	8	海拔0mから3000mの植物
	5/11			ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅰ
	5/19			海拔0mから3000mの動物・昆虫
	6/8	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅱ
	6/30			仏像～その形が現すもの～Ⅰ 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
	7/20			ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅲ
	8/10	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅳ
	9/14	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅴ
	9/29			仏像～その形が現すもの～Ⅱ 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
	10/20			きのこの講話 朝日村秋神温泉 小林 繁氏
				岐阜市立女子短期大学 教授 森 基子氏
	10/26	高校生	8	ハイビジョンマルチメディアソフト制作講座Ⅵ
	11/10			岐阜県の明治維新
	11/24			仏像～その形が現すもの～Ⅲ 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
	1/26			仏像～その形が現すもの～Ⅳ 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
	2/9			奈良・平安時代的美濃と飛騨
	2/23			近世京都画壇と美濃
	3/9			美濃地区の文化財紹介
	3/23			仏像～その形が現すもの～Ⅴ 大垣市文化事業団 大前 匡昭氏
自然観察会	4/29	小中生とその親	100	観察のこみちの樹木を調べよう（グリーンアドベンチャー事業）
	7/30		10	セミの羽化を観察しよう
	8/6	幼児とその親	40	夏の植物ウォッチングⅠ
	8/13	小中生	40	夏の植物ウォッチングⅡ
	10/13		40	化石ウォッチング
	1/11		40	百年公園のバードウォッチング
	3/8		40	春のめざめ 植物ウォッチング
恐竜セミナーGIFU	8/20	小学5・6年生とその親	50組	恐竜セミナーGIFU'96 in KAMITAKARA 共催：上宝村
	～22		100	～学ぼう古生代から中生代の化石～ 東京大学名誉教授 濱田隆正氏、恐竜イラストレーター ヒサクニヒロ氏
陶芸教室	9/22		30	茶 碗 陶芸家 岡田孝司・春海氏
たのしい博物館	4/13	幼児以上	50	体験！マルチメディア
	4/27			よろい・かぶとを着てみよう
	5/25			体験！マルチメディア
	6/22	幼児以上	40	体験！マルチメディア
	6/23	幼児以上		徳山のくらしを体験しよう
	7/13	幼児以上		体験！マルチメディア
	9/28	幼児以上	40	体験！マルチメディア
	10/12	幼児以上		体験！マルチメディア
	11/9			紙で恐竜をつくろう 造形作家 水野 政雄氏
	11/23	幼児以上	40	体験！マルチメディア
	12/14	幼児以上		体験！マルチメディア
	12/15			風をつくってあげよう 日本風の会会員 石原 文雄氏
	12/22		50	わら細工（正月の飾りをつくろう） 大野 仁久氏
	1/25	幼児以上	50	体験！マルチメディア
	2/8	幼児以上		体験！マルチメディア
	2/22			クイズで探検！博物館
	3/22	幼児以上		体験！マルチメディア
特別行事	5/26	親子		百年公園・博物館を写生しよう 共催：百年公園事務所
	10/20		100	きのこ王国岐阜体験セミナー 共催：県林政部
	1/7		200	七草がゆを食べよう

3 マイミュージアムギャラリー展示(マイミュージアムギャラリーの展示については出展者の責任でなされています。)

展示期間	出 展 者	出 展 内 容
4/6～5/12	舟守定喜代	男の粹・女の贅（紋付と丸帯）
5/18～6/23	高橋隆雄・石原文雄・谷陸海	三人展（花器・あかり・柱時計）
6/30～8/4	細野正一・亀山正博・林文造・安川義弘	関市の自慢（陣笠・掛軸・顔穴写真・書）
8/11～9/23	美濃たがね会 渡辺健一	日本の鋳展
10/1～11/4	小関英一・小関知明	火縄銃展
11/12～12/23	吉村正義	左久作と大工道具展
1/5～2/9	矢野愛彦・五十嵐昭元・和田董	紙の美術品（切手・引札）
2/18～3/23	藤田伸・杉山恒良・金森重三・吉田義男・森本茂生	掛軸展

III 平成7年度のあゆみ

〔職員〕

1 職員名簿

職名(担当)	氏 名	職名(担当)	氏 名	職名(担当)	氏 名
館 長	清水 廣 美	〔学芸部〕		学 芸 主 事	岩 田 正 雄
次 長 兼 総 務 課 長	竹 中 敬 明	学 芸 部 長	石 井 新 太 郎	学 芸 嘱 託 員	梅 溪 昌 美
〔総務課〕		課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	富 田 幸 八	課 長 補 佐 兼 教 育 普 及 係 長	安 藤 志 郎
総 務 係 長	岩 田 千 恵 子	(兼)課 長 補 佐 (民 俗)	曾 我 孝 司	(兼)学 芸 主 事	三 尾 寛 次 夫
主 任 事	小 寺 弘 春	学 芸 主 事 (考 古)	大 塚 章	学 芸 嘱 託 員	今 尾 英 夫
"	千 田 友 清	" (歴 史)	渡 邊 育 也	"	小 原 克 朗
"	大 滝 陽 子	主 事 (美 術 工 芸)	岩 佐 伸 一		
"	酒 井 美 奈	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	高 橋 涼		
業 務 嘱 託 員	古 野 村 美 保 子	課 長 補 佐 (地 学)	鹿 野 勘 次		
"	亀 山 綾 子	" (動 物)	杉 山 隆 則		
" (～6月)	加 藤 京 子	" (地 学)	川 合 康 司		
"	田 代 千 津 子	学 芸 主 事 (植 物)	井 上 好 章		
"	竹 内 寿 子	学 芸 嘱 託 員 (昆 虫)	説 田 健 一		
"	池 村 る み	課 長 補 佐 兼 マ イ ・ ミ ュ ー ジ ャ ム 係 長	小 串 泉		
" (7月～)	市 原 麻 利 子	課 長 補 佐	平 井 正 春		
育 児 代 替 嘱 託 員 (～11月)	長 谷 川 陽 子	(併)課 長 補 佐	田 中 義 夫		

2 異動

転出	次 長 兼 総 務 課 長	安 江 真 澄	転入	館 長	清 水 廣 美
	課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	野 原 薫		次 長 兼 総 務 課 長	竹 中 敬 明
	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	遠 藤 俊 治		課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	富 田 幸 八
	総 務 係 長	斎 藤 紘 子		課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	高 橋 涼
	課 長 補 佐	水 野 亘 雄		課 長 補 佐 兼 マ イ ・ ミ ュ ー ジ ャ ム 係 長	小 串 泉
	"	下 畑 五 夫		総 務 係 長	岩 田 千 恵 子
	"	安 田 守 聡		課 長 補 佐	鹿 野 勘 次
主 任	市 原 聡			(兼) "	曾 我 孝 司
退職	館 長	横 山 勢 津 男		(併) "	田 中 義 夫
	学 芸 嘱 託 員	大 前 匡 昭		学 芸 主 事	岩 田 正 雄
	業 務 嘱 託 員	長 谷 川 陽 子		"	渡 邊 育 也
	" (6月30日)	加 藤 京 子		主 任	小 寺 弘 春
	育 児 代 替 嘱 託 員 (11月30日)	長 谷 川 陽 子	新 任	主 事	岩 佐 伸 一
				学 芸 嘱 託 員	小 原 克 朗
				業 務 嘱 託 員	池 村 る み
				" (7月1日)	市 原 麻 利 子
				育 児 代 替 嘱 託 員 (4月22日)	長 谷 川 陽 子

3 歴代館長名簿

	在職期間(年度)	氏 名
1	昭和51年	小 幡 忠 良
2	昭和52年～昭和54年	松 尾 克 美
3	昭和55年～昭和56年	大 橋 桃 之 輔
4	昭和57年～昭和58年	吉 本 幹 彦
5	昭和59年	関 谷 美 智 男

	在職期間(年度)	氏 名
6	昭和60年～昭和61年	廣 田 照 夫
7	昭和62年～昭和63年	森 崎 利 光
8	平成元年～平成2年	伊 藤 秀 幸
9	平成3年～平成4年	篠 田 幸 男
10	平成5年～平成6年	横 山 勢 津 男

〔日誌抄〕

平成7年度

4. 1 「岐阜県博物館報」第18号発行
1 人事異動に伴う辞令交付
8 自然観察会「チョウを観察しよう」
24 特別展「岐阜の淡水魚」開場式
(～6月11日)
29 自然観察会「観察のこみちの樹木を
調べよう」
29 岐阜県博物館友の会総会
30 たのしい博物館「よろい・かぶとを
着てみよう」
5. 3 特別行事「ふるさと太鼓フェスタ'95」
5 特別展講演会「滅びゆく日本の淡水
魚」
12 岐阜県博物館協会通常総会
13 たのしい博物館「やきもの(日用品
をつくろう)」
21 特別展講演会「長良川に生息する魚」
22 県議会文教警察委員視察
6. 4 博物館講座「岐阜の淡水魚」
10 たのしい博物館「たのしい切り絵」
20 岐阜県恐竜化石学術調査団結団式
20～21 東海地区博物館連絡協議会(於:
横浜市)
24 たのしい博物館「たのしい紙細工」
7. 2 博物館講座「日本仏教の流れⅠ」
8 たのしい博物館「クイズで探検ノ博
物館」
11 資料紹介展「南米ボリビアの三葉虫」
(～8月4日)
17 マイ・ミュージアム落成式
18 マイミュージアムギャラリー「お数
珠と古陶」開場(～8月20日)
25 岐阜県児童生徒科学作品展移動展
(～8月6日)
30 自然観察会「君もとれるノボリピア
の化石」
8. 1 自然観察会「夏の植物ウォッチングⅠ」
8 自然観察会「夏の植物ウォッチングⅡ」
10 資料紹介展「岐阜とユタ州の恐竜」
(～9月3日)
10～12 ジュニア恐竜探検隊「探検ノ恐
竜回廊'95」(福井県との交流)
20 たのしい博物館「竹細工(竹でおも
ちゃを作ろう)」

- 21 恐竜ゼミナールGIFU'95「恐竜教室」
22～23 恐竜ゼミナールGIFU'95「恐竜探
偵団」(於:神岡町、上宝村)
26 マイミュージアムギャラリー「日本
と世界の刃物 鋳造の魅力」開場
(～10月1日)
27 恐竜ゼミナールGIFU'95「恐竜教室」
27 博物館講座「岐阜の恐竜」
30 ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・
みの紀行」ソフト制作研究委員会
9. 9 たのしい博物館「ハイビジョンで楽
しもう」
10 博物館講座「日本仏教の流れⅡ」
15 陶芸教室「茶碗」
23 博物館講座「岐阜の火山」
24～1 博物館員ユタ州訪問(恐竜化石
の借用、交流の推進)
10. 2 特別展「美濃・飛騨の古代史発掘－
律令国家の時代－」開場式(～11月
19日)
4～5 東海三県博物館協会交流研修会
(於:三重県明和町)
8 たのしい博物館「徳山のくらしを体
験しよう」
12 入定三百年記念「田舎展－その人と
技－」開場式(～11月5日)
14 たのしい博物館「ハイビジョンで楽
しもう」
15 特別展シンポジウム「古代の美濃・
飛騨を考える」
22 特別行事「きのこ王国岐阜体験ゼミ
ナール」
22 博物館講座「きのこ講話」
25～26 全国博物館大会(於:弘前市)
28 たのしい博物館「田舎影りに挑戦し
よう」
30 マイミュージアムギャラリー企画運
営委員会
11. 3 文化講演会「教科書にない自然」
4 田舎シンポジウム「世界における田舎」
5 特別講演会「古代寺院と瓦」
7 ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・
みの紀行」がマルチメディアグラン
プリ'95ハイビジョン部門パブリック
作品賞を受賞。
11 たのしい博物館「ハイビジョンで楽
しもう」

11. 19 博物館講座「律令制下の美濃国・飛
騨国」
21 マイミュージアムギャラリー「西洋
の古美術とガンダーラ」開場(～12
月17日)
22 ハイビジョンアワード'95選定委員
長賞を受賞。
25 たのしい博物館「版画で年賀状をつ
くろう」
26 博物館講座「日本仏教の流れⅢ」
12. 9 たのしい博物館「ハイビジョンで楽
しもう」
17 たのしい博物館「風をつくってあげ
よう」
23 たのしい博物館「わら細工(正月の
飾りをつくろう)」
1. 5 マイミュージアムギャラリー「レン
ズ付きフィルム・紙の宝石」開場(～
1月28日)
6 自然観察会「冬の植物ウォッチング」
7 特別行事「七草がゆを食べよう」
13 自然観察会「百年公園のバードウォッ
チング」
26～27 福井県・岐阜県恐竜化石調査交
流会(於:福井市)
27 たのしい博物館「ハイビジョンで楽
しもう」
28 博物館講座「日本仏教の流れⅣ」
2. 3 マイミュージアムギャラリー「村瀬
秋水墨跡展」開場(～2月25日)
6 特別陳列「ふるさとの文化財紹介展－
岐阜地区」(～3月24日)
10 たのしい博物館「博物館の資料をか
こう」
11 博物館講座「岐阜地区の文化財紹介」
18 博物館講座「岐阜の帰化植物」
24 たのしい博物館「ハイビジョンで楽
しもう」
3. 2 マイミュージアムギャラリー「仏像
・仏画の世界」開場(～3月24日)
9 たのしい博物館「ハイビジョンで楽
しもう」
17 博物館講座「岐阜地区の文化財紹介」
23 自然観察会「キノコ虫を観察しよう」
26 県知事より「親顧誘賞」を受賞

〔博物館協議会〕

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、また意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例(昭和51年)第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

氏 名	職 名 等
小 瀬 洋 喜	大垣女子短期大学 学長
片 桐 武 司	岐阜県私立中学高等学校協会 会長
熊 田 光 久	岐阜県博物館友の会 会長
倉 角 秀 悟	岐阜県中学校長会 会長
○坂 倉 又 吉	千代菊(株) 取締役会長
篠 田 薫	学校法人篠田学園 かぐや第三幼稚園 副園長
嶋 崎 藤 雄	岐阜県公民館連合会 会長
◎土 屋 齊 斉	(株)大垣共立銀行 取締役名誉会長
溝 脇 昭 人	名古屋テレビ放送岐阜支局
山 口 正 和	岐阜県小学校長会 会長
若 山 恭 道	岐阜県高等学校長協会 副会長
和 田 吉 弘	中部女子短期大学 教授

◎会長 ○会長代理 (平成8年3月31日現在 五十音別)

〈開催状況〉

月 日 平成7年10月12日
場 所 岐阜県博物館 講堂
議 事 ・入館者増加対策と博物館リニューアルに
ついて
・その他

〔実施事業の概要〕

開館20周年に向けて、県民の長年の夢である開放・参加・創造型博物館として、平成7年7月17日にマイ・ミュージアムを開館した。落成式典には、梶原知事をはじめ、ボリビア大使夫妻、全国のメディア関係者等150名が参加し、盛大なオープンとなった。公立の博物館として類を見ない「マイミュージアムギャラリー」では、県民自らの手で企画・運営される展示会が実現され、世界初のハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」はハイビジョンホールの大画面で、またマルチメディアスタジオでの個人検索と、県民が楽しみながら自発的意思で学習できるマルチメディアソフトを完成させ、新しい博物館の在り方を内外に喧伝し、マイ・ミュージアムの無料開放や「博物館運営5則」を定めて県民に親切でやさしい施設とするよう努めた。

このマイ・ミュージアムは通産省の支援を受けた全国六か所の「マルチメディア情報センター」の一つであり高度情報社会における「であい楽しい情報ステーション」として、また県下に先駆け10月1日には「マルチメディア工房」をオープンし、県民参加によるソフト制作を支援するなど「ハイビジョン王国ぎふ」づくりに寄与した。

また、博物館支援の組織作りを進め、資料や専門的知識提供者14名を「博物館同人」として、さらに事業協力者33名を「博物館サポーター」として登録し、事業の推進に当たっていただいたのも特筆に値する。

アメリカのユタ州ブリガムヤング大学から借用した恐竜化石の「花フェスタ'95」への展示、「南米ボリビアの三葉虫」展へのボリビア大使夫妻の招待、「恐竜ゼミナールGIFU'95」の講師としてブリガムヤング大学附属地球科学博物館のケネス・リー・スタッドマン氏の招請、平成8年度に開催する記念展「恐竜のふるさとユタ」の打合せ

のため館員のユタ州への派遣、第1回県民文化祭への参加として国際的に著名な円空研究家による「円空シンポジウム・世界における円空」の開催等、国際的にさらにもう一步踏み出した年でもあった。

1 調査研究活動

人文関係では、「岐阜県の文化－美濃・飛驒の比較研究－」というテーマで、それぞれ特色ある美濃と飛驒の両地方の文化を総合的に調査し記録した。自然関係では、「伊吹の自然」というテーマで、伊吹山一帯の自然を総合的に調査研究を行った。

2 展示活動

下の表に示すように、特別展2回、資料紹介展2回、特別陳列1回、マイミュージアムギャラリー展6回を行ったほか、名古屋市と岐阜県の共催で行われた「入定300年記念『円空展』」を開催し、その中で「後藤英夫写真展－円空さんとわたし－」を本館及び未来会館で同時開催した。

3 資料収集活動

人文関係では、美濃・飛驒両地域の古代史関連の資料の収集を行い、自然関係では伊吹山一帯の植物の資料の収集に努めた。

4 教育普及活動

「たのしい博物館」(19回)等年間54回(59日)という例年をはるかに上回る講座、観覧会等を開催した。「ハイビジョンで楽しもう」など新しい番組も増え、それぞれ好評を博した。中でも、全国発進した「恐竜ゼミナールGIFU'95」では、「ジュニア恐竜探検隊」と合わせて全国から1000名を越す応募者があり、大きな反響と成果を挙げた。2年目となる特別行事「きのこ王国岐阜体験ゼミナール」も大好評であった。

なお、本年度入館者は73,812名であった。

展 示 名	期 間	展 示 内 容	入館者数
常 設 展	年 間	人文展示室Ⅱの円空のコーナーを中心に新資料を追加し随時、仏教・刀剣・陶器等のコーナーの展示替えをした。	—
特別展 「岐阜の淡水魚」	4/25～6/11	岐阜県に生息する淡水魚についての調査研究の成果を紹介。珍しい淡水魚を生態展示をはじめ、液浸標本や剥製などを通して岐阜県の淡水魚の生態を明らかにした。	16,468
「美濃・飛驒の古代史発掘」 —律令国家の時代—	10/3～11/19	律令時代の岐阜県の様子を寺院の瓦など1,200点以上の資料で調査研究の成果を発表した。美濃・飛驒の両地域の特色を新しい発掘の成果を踏まえ明らかにした。	20,168
入定三百年記念展 「円空展」	10/13～11/5	円空上人の没後300年を記念して、名古屋市との共催で開催。200点近い資料によって円空の人となりを明らかにしようとする新しい試みもした。	13,964
「後藤英夫写真展－円空さんとわたし－」	10/13～11/5 (11/3～11/5)	円空写真の第一人者後藤英夫氏の円空の世界を写真と文で紹介した。11月3日からは未来会館でも展示した。	—
資料紹介展 「南米ボリビアの三葉虫」	7/11～8/4	大野透太郎氏寄贈による200点に及ぶ南米ボリビアの三葉虫化石を中心に館蔵資料等も含めて、調査研究の成果ならびに国の様子を紹介した。	4,328
「岐阜とユタ州の恐竜」	8/10～9/3	「花フェスタ'95」にユタ州から借用した恐竜化石や、岐阜県で収集された恐竜化石などによって、岐阜県恐竜化石学術調査団等の調査研究の成果を展示した。	8,139
特別陳列 「ふるさと文化財紹介展」 ～岐阜地区～	2/6～3/24	県内の文化財をシリーズで紹介する企画展の2年目であり、岐阜地区17市町村の特色ある文化財を調査研究し、その成果を60点の資料で紹介した。	6,122
マイミュージアムギャラリー 展示	7月以降年間	「お数珠と古陶」(7/18～8/20)「日本と世界の刃物」(8/26～10/1)「西洋の古美術とガンダーラ」(11/21～12/17)「レンズ付きフィルム・紙の宝石」(1/5～1/28)「村瀬秋水墨跡展」(2/3～2/25)「仏像・仏画の世界」(3/2～3/24)	—

【マイミュージアムのオープンの記録】

「マイ・ミュージアム」は、県民の皆様が、“集い、ふれあい、学び、創る”拠点としての博物館の役割を高めるとともに、「であい楽しい情報ステーション」をキーワードに、県民がだれでも参加できる新しいタイプの博物館として、また「マルチメディア情報センター」としても整備され、平成7年7月17日に落成式典・記念祝賀会及びピック対談を開催し、来賓や関係者の祝福を受けました。



【写真説明】 エントランス前にて、来賓と関市虹ヶ丘幼稚園児の皆さんが開館を祝して、テープカットをされました。

9 : 45 ~ 10 : 40

- ・オープニングアトラクション（虹ヶ丘幼稚園児の和太鼓）及びテープカット
- ・開式の辞 大宮義章岐阜県教育委員会教育長
- ・知事式辞



【写真説明】 梶原岐阜県知事は、主催者を代表して「博物館を更に開放・参加・創造型の文化、情報の発信、交流の拠点とします」と宣言し、これまでの関係者多数の協力に感謝を述べられました。

10 : 40 ~ 11 : 20

- ・ハイパーハイビジョン風土記紹介
- ・来賓祝辞（ボリビア大使、中部通商産業局長、県議会議長）
- ・マルチメディア情報センターの紹介
（ギャラリー第1回出展者 岩田伸雄・小沢善一両氏の中継映像、「岐阜の名水」上映等）
- ・博物館同人第1号授与 舟橋 正氏
- ・閉式の辞 清水廣美博物館長
- ・ボリビア大使に名誉賓客章授与



【写真説明】 写真中央は駐日ボリビア共和国 特命全権大使ホルヘ・バルカーサル氏。同時に開催されていた「南米ボリビア三葉虫」展に尽力され、ボリビア共和国と岐阜県との国際親善の功績により、岐阜県知事から「岐阜県名誉賓客章」の授与があった。式典のあと、マイミュージアムギャラリー「お数珠と古陶」展なども見学されました。

13 : 00 ~ 14 : 00

- ・知事とピック対談（ハイビジョンホール）
対談者は漫画家 モンキーパンチ氏



【写真説明】 モンキーパンチ氏は、「マンガも印刷媒体だけでなくCD-ROMとかコンピュータ化の表現方法へ広がっていく」と、マルチメディア時代への期待感を語られました。

〔展示の入れ替え〕

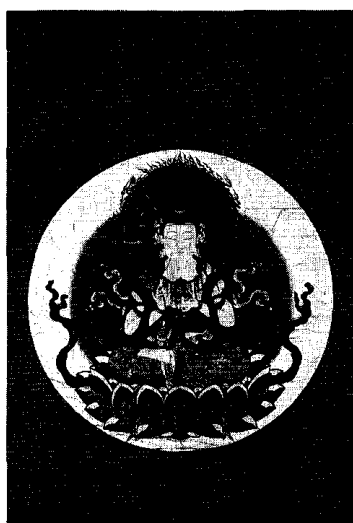
人文展示室Ⅱ

本年度は、秋季特別展を当展示室で開催したのを機に、金工コーナーを新設するなど随時、展示替を行った。

(1) 仏教美術コーナー

このコーナーは、県内の寺院に収蔵される、歴史的・美術的に価値の高い仏像・仏画および仏教にかかわる作品（行道面など）を展示した。

地藏菩薩画像	絹本着色	室町時代	
孔雀明王画像	絹本着色	鎌倉時代	
愛染明王画像	絹本着色	室町時代	
行道面(菩薩)	桐材著色	鎌倉時代	ほか



地藏菩薩画像 岐阜県博物館蔵

(2) 陶芸コーナー

このコーナーは、多治見工業高等学校所蔵の織部を中心に、岐阜県を代表する焼き物である織部焼や金華山焼、また近隣の犬山焼などを展示した。

織部筒形向付	五客一揃	岐阜県博物館蔵
織部梅丈向付	一枚	多治見工業高等学校蔵
金華山焼 青楽茶碗	一点	
犬山焼 色絵三葉葵紋台鉢	一点	ほか



織部四方鉢 岐阜県博物館蔵

(3) 書画コーナー

地元にゆかりの深い人物の作品をはじめ、日本美術史上に名をのこす画家たちの作品を、江戸時代のものを中心に展示した。

狩野定鷹	架鷹図	紙本着色	八曲一隻
頼山陽	漢詩屏風	紙本墨書	六曲一隻
江馬細香	雪中生筍図	紙本墨画	一幅
浮田一恵	鴛鴦図	絹本着色	一幅

(4) 刀剣コーナー

このコーナーでは、美濃の刀剣を中心に、備前刀など他国で作刀された名刀や、珍しい刀剣を展示した。

年間を通じて、太刀・打刀・短刀・槍など各種の刀剣を展示したり、「拵コーナー」を設け、太刀拵、打刀拵、薙刀拵、槍拵などを展示し、小中学生から一般の方まで広く刀剣に親しめるようにした。また、同時に刀鍛冶の製作過程など実物資料を通して学べるようにした。

(5) 金工コーナー

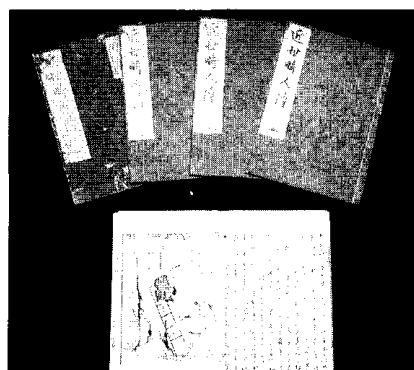
当館には、鐔や小柄をはじめとする刀装具が多く寄託されている。また古鏡の寄託品も多くあり、これらを展示するべくあらたに本コーナーを常設展示に加えた。

雲龍象嵌高彫鐔	銘 重次	
アワビ高彫鐔	銘 清近	
夕立図高肉金象嵌鐔	銘 正楽	
柿高肉色絵象嵌鐔	無銘	
水車文大透鐔	無銘	ほか

(6) 円空コーナー

岐阜県が誇る独創的な芸術家・円空の業績を展示した。入定三百年記念「円空展」に際し、藤川靖司氏より寄贈された、「富士山図」「三神号軸」などの新資料を加えて充実を図った。

木造仏弟子立像(複製)	原資料	高賀神社蔵
画面宿離像(複製)	原資料	千光寺蔵
近世崎人伝		岐阜県博物館蔵
富士山図	藤川靖司氏寄贈	岐阜県博物館蔵
神号軸	藤川靖司氏寄贈	岐阜県博物館蔵



近世崎人伝 岐阜県博物館蔵

【特別展】

1 「岐阜の淡水魚」

4月25日(火)～6月11日(日)

ふるさと岐阜県は、海こそ面していないが、木曽・長良・掛菱の木曽三川をはじめ、宮川、庄川、土岐川など太平洋・日本海に流れる大河川を有し、淡水魚の宝庫である。国指定の天然記念物のネコギギは、東海地方の伊勢湾を取り巻く河川しか生息していない。同じく天然記念物のイタセンバラも、濃尾平野の一部と淀川流域・富山平野のごく限られた地域にしか姿を見ることがない種で、絶滅が危惧されている。また、湧水にすむトゲウオ科のハリヨも生息地域は限られていて、三重県ではすでに絶滅したといわれ、自然状態では岐阜県が分布の南限をなすものである。

セキツイ動物の中でも最も古い歴史をもつ魚類は、自然史を語る上で重要な位置をしめている。身近に魚に接しているにもかかわらず、意外と知られていないことが多いものである。

本特別展では、県内に生息する淡水魚を広く紹介し、魚への関心を高める契機となり、自然を見なおす一助となることを目指した。

〈展示内容〉

展示内容を6つのコーナーに分け魚類標本121点、化石標本8点、植物・昆虫標本16点、ジオラマ2点、写真解説パネル327点、飼育水槽28個を展示した。

(1) 化石に見る魚類

県内産出の魚の化石の中で、カニオヤニラミ、コイ科魚類化石、硬鱗魚の鱗等を紹介した。また、生きた化石としてシーラカンスのレプリカを展示した。

(2) 岐阜県の川や池に生息する魚

上流・中流・下流域に生息する淡水魚の種類とその知られざる生態を剥製標本・液浸標本・写真パネル等で紹介した。

主な展示資料は、イワナ、ヤマメ、アマゴ(サツキマス)、アカザ、カジカ、アジメドジョウ、ヨシノボリ、タカハヤ、カワムツ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、タモロ

コ、イトモロコ、デメモロコ、カワムツ、オイカワ、モツゴ、イチモンジタナゴ、アブラボテ、ウナギ、ナマズ、ドンコ等の剥製・液浸標本である。

(3) 滅びゆく淡水魚

国指定天然記念物と国内河川から絶滅が危惧される環境庁指定絶滅危惧種及び危急種、希少種、地域固有種(レッドデータブック記載種)を紹介した。

主な展示資料は、イタセンバラ、ミヤコタナゴ、ネコギギ、アユモドキ、ニッポンバラタナゴ、ウシモツゴ、イトウ、ハリヨ、ゼニタナゴ、オヤニラミ、アユカケ等の剥製・液浸標本である。

(4) 外来魚 ～日本に帰化した淡水魚～

県内河川に生息分布を拡大した帰化魚を中心に紹介した。

主な展示資料は、タイリクバラタナゴ、オオクチバス、ブルーギル、カムルチー、ナイルティラピア、アオウオ、ソウギョ等の剥製・液浸標本である。

(5) 県魚アユ

県魚「アユ」のタマゴから成魚までの一生や近似種リュウキュウアユの生態を剥製・液浸標本や写真パネル等で紹介した。

(6) 飼育展示

60cm、90cm水槽にて43種を紹介した。この中でイタセンバラ等国指定天然記念物の4種とウシモツゴ、ハリヨ等県内に生息するレッドデータブック記載全種と日本産タナゴ15種全種を展示した。魚種によっては、水温の変化を考慮し、冷却装置を取り付けた。



〈関連事業〉

○特別展講演会

5月5日 「滅びゆく日本の淡水魚」

琵琶湖文化館学芸員 前畑 政善氏

5月21日 「長良川に生息する魚」

名古屋女子大学教授 駒田 格知氏

○博物館講座

6月4日 「岐阜の淡水魚」

当館学芸員

○図録出版 「岐阜の淡水魚」 (B5版65ページ)



2 特別展「美濃・飛驒の古代史発掘

～律令国家の時代～

10月3日(火)～11月19日(日)

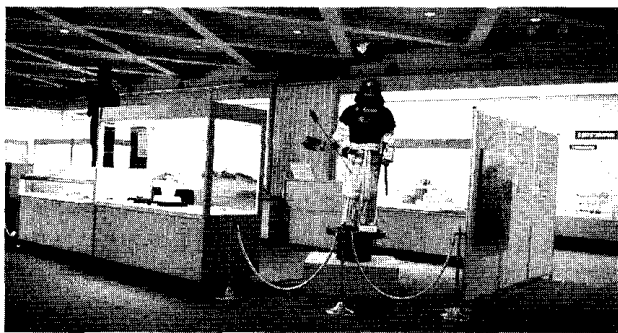
奈良時代を中心にその前後の時代は、律令国家の時代と言われている。この時代、畿内と東国を結ぶ要衝の地にあたる美濃国には「不破関」が設置され、歴史の舞台の中で常に大きな役割を果たしてきた。一方、飛驒国では、「飛驒の匠」として結実する独自性豊かな山と木の文化を育んでいた。

本特別展は、“関国・美濃”と“^{ひんこく}匠丁の国・飛驒”というそれぞれに特徴のある両国の古代の姿を、さまざまな角度からとらえ、展示することによって、郷土の歴史と文化に対する興味・関心を喚起する契機となることを願って企画したものである。

さらには、県下の各地で最近盛んに行われている遺跡の発掘調査や研究などの現状を、広く一般に紹介する機会としての意味も併せて、本展を実施した。

＜展示構成の概要＞

政治・産業・文化など、古代の郷土の姿を系統的かつ包括的にとらえることができるよう、大きく5つのコーナーにわけて展示を構成した。展示資料は、寺院跡などから出土した瓦類、須恵器などの陶器類を中心に1200点を越すものとなった。



I 古代の道と不破関

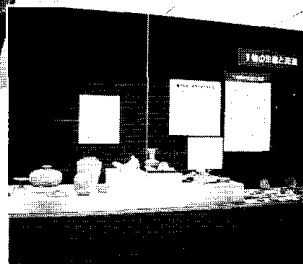
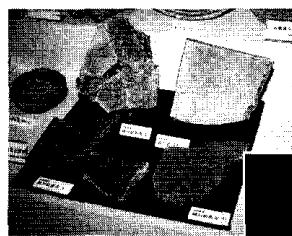
不破関跡（関ヶ原町）を通して関国・美濃を紹介する一方、東山道や飛驒支路などの古道の問題にも触れた。

II 律令国家の地方支配

木簡等の資料により国郡里の地方制度や、飛驒匠丁の問題を解説した。このコーナーでは、美濃国府跡（垂井町）や郡衙跡といわれる弥勒寺東遺跡（関市）などの遺跡も紹介した。

III 並び立つ古代寺院

知られている県内の古代寺院の多くを紹介した。その際、5つの地域と国分寺の小コーナーに分けて展示した。美濃・飛驒の両国分寺のほか、長良廃寺（岐阜市）、願興寺（御嵩町）、正家廃寺（恵那市）、杉崎廃寺（古川町）など注目を浴びている古代寺院の瓦類（特に軒瓦）を中心に展示した。また、国重文の山田寺（各務原市）出土の佐波理銅鏡も展示した。



IV 古代人の暮らし

「大宝二年（702）御野国加毛郡半布里戸籍」の故地とされる富加町の遺跡からの出土品や、各地の遺跡から見つかった木簡や墨書土器などによって古代の人々の生活の様子を紹介した。

V 物の生産と流通

各務原一帯（美濃須恵古窯跡群）の須恵器や東濃の施釉陶器など、美濃国における盛んな窯業生産の姿を紹介。また、その製品が全国各地に広く流通していることを、老洞古窯（岐阜市）産の「美濃（国）」刻印須恵器（国重文）などによって示した。

＜関連事業＞

○特別展シンポジウム

10月15日「古代の美濃・飛驒を考える」

三重大学教授	八賀 晋氏
岐阜大学助教授	早川 万年氏
名古屋市博物館	梶山 勝氏
岐阜市歴史博物館	藪下 浩氏
古川町教育委員会	白川修平氏

○特別展講演会

11月15日「古代寺院と瓦」

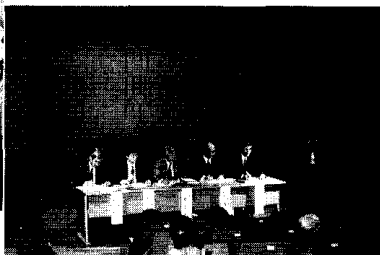
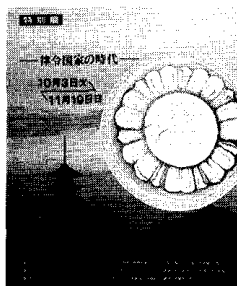
帝塚山大学教授	森 郁夫氏
---------	-------

* 以上の2事業は、より視覚的に問題をとらえることができるよう、新設のハイビジョンホールにて、書画投影装置などを利用して実施した。

○博物館講座

11月19日「律令制下の美濃国・飛驒国」当館学芸員

○図録「美濃・飛驒の古代史発掘」（B 5 判64ページ）



〔入定三百年記念 円空展〕

～その技と人～

10月13日(金)～11月5日(日)

この展覧会は、江戸時代の造仏僧・円空が関市池尻の弥勒寺において入定して三百年になるのを記念して、名古屋市と協力して企画・準備し、双方で開催した。

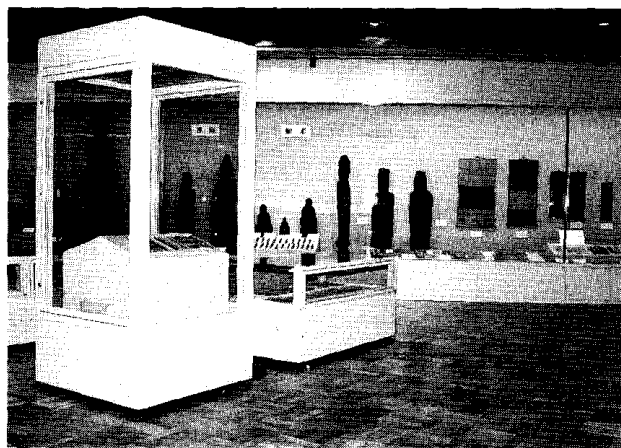
江戸時代前期の寛永9年(1632)美濃国に生まれた円空は、若年より寺に入り、僧として修行を積んだとされる。

現存する作品の最も早いものは、寛文3年(1663)円空三十二歳の手になる「天照皇太神像」(美並村・神明神社蔵)だが、まだこの頃の作品にはこまやかさが感じられ、荒削りの円空仏はイメージしがたい。

後年、北は北海道から西は奈良まで日本の東半分を自らの足で歩き、各地に円空仏を残した。そのため現在でも東日本には多くの円空仏が現存し、なかでも埼玉県には百体以上、北海道にも約四十点が確認されている。

円空は、その生涯の大半を旅に過ごしたが、晩年は関市の弥勒寺を再興し、元禄8年(1695)に入定した。

なお、会場は第一会場をマイミュージアムギャラリーとし、ここでは導入部として愛知県江南市音楽寺及び安城市長福寺に分蔵される「阿弥陀如来像」「十二神将像」などを展示し、それ以外は主に円空自筆・関連の文書類を展示した。また、第二会場の本館特別展示室においては、出品された円空仏のうち「明王」「天部」「垂迹」に分類される彫像を展示した。



マイミュージアムギャラリー会場展示

〈本展覧会の特色〉

(1) 出品作品の豊富なバラエティー

従来より注目を集めていた円空仏ばかりでなく、自筆の文書や伝記類も展示した。

「円空自筆文書類」	紙本墨書	星宮神社蔵
「六字名号」	紙本墨書	個人蔵
『近世畸人伝』伴高蹊著		岐阜県博物館蔵
		ほか



『近世畸人伝』

(2) 展覧会史上初公開の作品も展示

今まで注目されてこなかった文書類にも焦点をあてた結果、展覧会史上初公開の作品が、多数出品された。

「富士山図」 藤川靖司氏寄贈 岐阜県博物館蔵
「三神号軸」 藤川靖司氏寄贈 岐阜県博物館蔵
「観音菩薩像」 金山町祖師野区蔵
ほか

(3) 初期の作品から晩年の作品までを時代的に網羅

約40年間にわたって造像し続けた円空の作風変遷が明瞭にうかがえるように作品の選定を行った。

(4) 地域的な広がり

全国各地を行脚した円空だが、とくにふるさとの美濃・飛騨には多くの仏像を残した。

本展では、岐阜県あげての円空記念展の名にふさわしく、県内各地域はもとより、愛知、三重、さらには千葉県からも出品の協力を得た。

(5) 尊像名による展示

従来の円空展では、所蔵者ごとに配列するのが一般的であったが、本展では同一名の尊像を一か所にあつめ、同じ名称をもつ仏像でも時期や奉納先によってさまざまな表情があることをより比較しやすいように展示した。

〈「円空展」関連事業〉

① 円空シンポジウム「世界における円空」

11月4日…未来会館「長良川ホール」

② 後藤英夫写真展「円空さんとわたし」

10月13日～11月5日…岐阜県博物館

11月3日～11月5日…未来会館

③ たのしい博物館「円空彫りに挑戦しよう」

10月28日…岐阜県博物館

④ 英字版郷土のひとシリーズ・その1

「円空さんとわたし」―後藤英夫写真集一の出版

〔資料紹介展〕

1 南米ポリビアの三葉虫

7月11日(火)～8月4日(金)

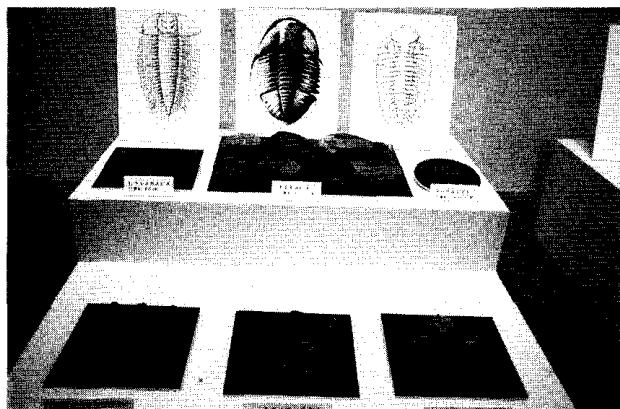
地球が誕生して46億年、35億年前に誕生した生物は、6億年前になると爆発的に繁栄した。これが古生代の始まりで、生命に満ちあふれた豊かな時代のはじまりになる。古生代は、現在生きている生物につながるものから絶滅して現在では見ることができない生物まで、多くの種類の生物が繁栄した。まさに、生命のロマンに満ちあふれた時代である。

三葉虫は、古生代(5.7～2.4億年前)を代表する生物で、カンブリア紀(5.4億年前頃)に大半の種が出現してオルドビス紀(4.4億年前頃)にかけて大繁栄した。シルル紀(4.1億年前頃)以降になると滅亡に向かい、二畳紀(2.4億年前)末には滅亡した動物である。古生代は、三葉虫時代とも言われる。

この資料紹介展では、寄贈を受けた南米ポリビアの三葉虫を中心に、古生代に生きた多様な生物の世界を、同じ時代生きた岐阜県産のいろいろな化石をまじえて紹介した。化石をとおして、多様な生物に満ちあふれた太古の世界に目を向け、生命のロマンに触れることをめざした。

〈博物館に寄贈された南米ポリビアの三葉虫について〉

寄贈を受けたポリビアの三葉虫は、和歌山県田辺市在住の大野透太郎氏が、ポリビア日本国大使館勤務の35年間に収集されたものである。三葉虫を中心に、腕足類・巻貝類・サンゴ類・小錐類など全部で250点の寄贈を受けた。寄贈された資料は、古生代のようすと生物の進化を知る上で貴重なものである。



三葉虫 展示のようす

〈展示構成〉

寄贈された化石を中心に岐阜県産の化石を加えて、化石標本325点、ポリビアの民芸品資料38点、パネル72点、写真59点およびポリビア国旗、の合計495点を、次の5つのコーナーに展示した。

(1) いろいろな化石

化石とは何かを実物を示して解説した。化石は、古生物のからだが残ったものだけでなく、生活の痕跡を示す化石、古生物の形態だけが残った化石、鉱物などに置き換わった化石、ほかいろいろある。これらの化石を実例で紹介した。

(2) ポリビアの三葉虫と、共に生きた動物たち

オルドビス紀とデボン紀の三葉虫類化石を22種類、146点を紹介した。また、太古の海で三葉虫類と共に生活した腕足類・直角石・巻貝類・二枚貝類・サンゴ類・小錐類・ウミユリ類・フズリナ類などもあわせて紹介し、古生代の生命の豊かさを示した。

(3) 福地の化石

日本最古の化石をはじめとして、全国に誇れる化石が豊富に産出する上宝村福地の古生代の化石を紹介した。展示化石は、三葉虫類・サンゴ類・腕足類・層孔虫類など館蔵のものを紹介した。

(4) 赤坂の化石

大垣市赤坂町金生山は、二畳紀の化石が豊富で古くから研究がなされ日本古生物学の発祥の地とも言われる。世界的に知られるベレロフォン・パスロトマリアほかの大型の巻貝類・二枚貝類・サンゴ類、またフズリナ類などを紹介した。

(5) ポリビア共和国の紹介

銀や錫製品、folklore人形などの民芸品および自然景観の写真などを通して、豊かな自然環境のなかで発展するポリビア共和国を紹介した。



三葉虫化石の採集

〈関連事業〉

自然観察会

7月30日

「君にもとれる！ポリビアの化石」

資料紹介展と常設展の化石を見学して化石を理解し、1人1人がポリビアの三葉虫1点のほかに岐阜県産の化石3点を採集した。

2 岐阜とユタ州の恐竜

8月10日(木)～9月3日(日)

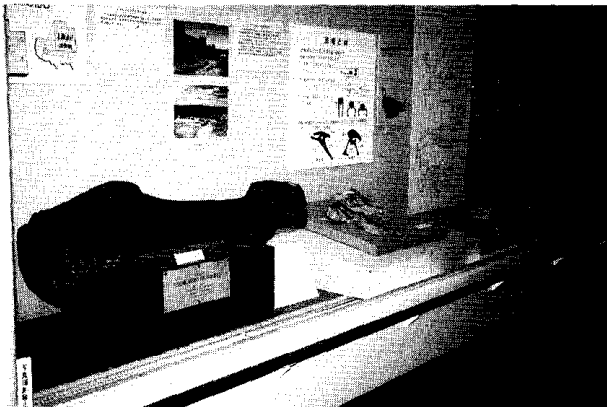
岐阜県北部の大野郡荘川村、白川村付近には中生代のジュラ紀、白亜紀の地層の手取層群が広く分布している。手取層群は多くの化石を含み、古くから植物、貝類の研究が進み、日本でも代表的な中生代の地層の一つとなっている。

平成元年に、恐竜の足跡化石が白川村で発見されて以来、岐阜県博物館では、平成2年度より本年度まで、三次にわたる恐竜化石学術調査を行った。その結果、ドロマエオサウルスと思われる恐竜の歯の化石をはじめ、脊椎動物の骨格、カメの甲羅、魚の鱗、海水性や淡水性の貝類、植物など多数の化石を採集することができ、学術調査研究報告も行った。

また、岐阜県博物館では、「恐竜王国岐阜づくり」をテーマに各種事業を実施してきた。アメリカのユタ州、ブリガムヤング大学附属地球科学博物館所蔵の恐竜化石展示事業は、「海外博物館との交流」の端緒となるものであった。

この紹介展では、4年度に展示した資料に加え、新たにクリーニングした恐竜の化石7点、「花フェスタ'95」で展示された恐竜の化石4点を展示した。さらに、これまで恐竜学術調査の成果を公表するために、調査での採集資料を紹介した。

また、ユタ州産の恐竜化石を展示することにより、中生代に生きた恐竜への興味を引き立てるとともに、岐阜県とユタ州との友好にも大きな役割を果たしたものと考えられる。



<展示構成>

(1) 岐阜の恐竜

① 荘川の恐竜

荘川村で発見されたイグアノドン、ドロマエオサウルス、竜脚類、獣脚類、鳥脚類などの恐竜の歯・骨片を展示した。

② 白川の恐竜

白川村で発見された魚竜の歯、恐竜の肋骨などを展示した。

(2) 恐竜の生きていたころ

① 海の時代

荘川村の海成層から産出したアンモナイト、イノセラムス、ペレムナイトを展示し、当時の環境を考察した。

② 湖の時代

荘川村、白川村から産出した淡水性の貝類、魚類を展示し、環境の変遷と恐竜の生きていた当時の環境を考察した。

③ 湖の周りの森

手取層群から産出する植物化石を展示し、当時の森林の様子を考察した。

(3) ユタ州の恐竜

ユタ州やユタ州の近辺から産出した獣脚類、鳥脚類、角竜類、剣竜類、魚竜類、翼竜類などの生息当時の想像図を展示するとともに、オスニエリアの骨格標本、スーパーサウルスの肩甲骨、竜脚類の椎骨、アロサウルスの椎骨、ディプロドクスの大腿骨（ユタ州ブリガムヤング大学からの借用物）を展示した。

(4) 岸辺を歩いた恐竜たち

コロラドの恐竜足跡、実物標本、白川村の恐竜足跡、イグアノドンの足跡化石を展示することにより、恐竜の生活の一端を紹介した。

(5) 岐阜県恐竜調査団の歩み

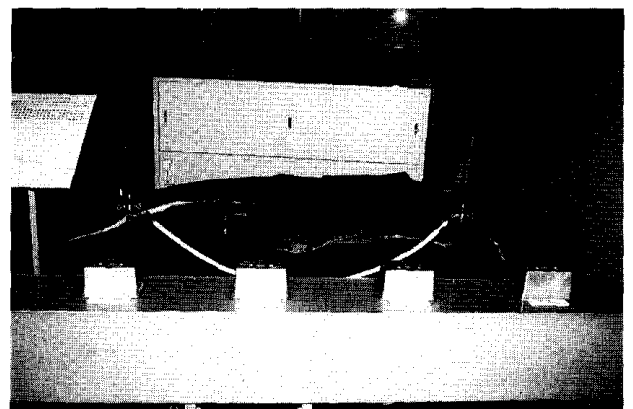
岐阜県恐竜化石学術調査団の調査の歩みをパネル、地質模型で紹介した。

(6) 恐竜の足跡実体視

白川村の足跡化石、韓国の足跡化石、アメリカの足跡化石の写真を実体視ができるように展示した。

(7) 恐竜の卵化石展示コーナー

岐阜県で確認された恐竜の卵の化石を展示した。



<関連事業>

8月10日～12日

ジュニア恐竜探検隊「探検!! 恐竜回廊'95」

8月27日

博物館講座「岐阜の恐竜」

〔特別陳列〕

「ふるさとの文化財紹介展」－岐阜地区－

2月6日（火）～3月24日（日）

東西の文化が交流する岐阜県には歴史的にも文化的にも優れた文化財が数多く残されている。これらの中から国、県をはじめ各市町村は、有形、無形の文化財を指定して文化財への地域住民の関心や理解を深め、さらに保護に努めてきている。

本特別陳列「ふるさとの文化財紹介展」では、指定文化財に限らず、各市町村の特色がよくあらわれている資料や文化財を数点ずつ選び陳列した。一つ一つの資料の持つ来歴、文化的価値などの理解と合わせて、郷土の歴史、風土、文化財保護に一層の関心を深めていただくことを目的としている。

昨年度は、西濃地区20市町村の文化財を紹介した。本年度は、岐阜地区17市町村を対象とした地域的な特色をよくあらわした歴史資料、絵画、書画、民俗資料などを展示した。

〈主な展示構成〉

市町村別に展示構成した。

①岐阜市②各務原市③羽島市④川島町⑤笠松町⑥柳津町⑦岐南町⑧北方町⑨本巣町⑩穂積町⑪巣南町⑫真正町⑬糸貫町⑭根尾村⑮高富町⑯伊白良村⑰美山町

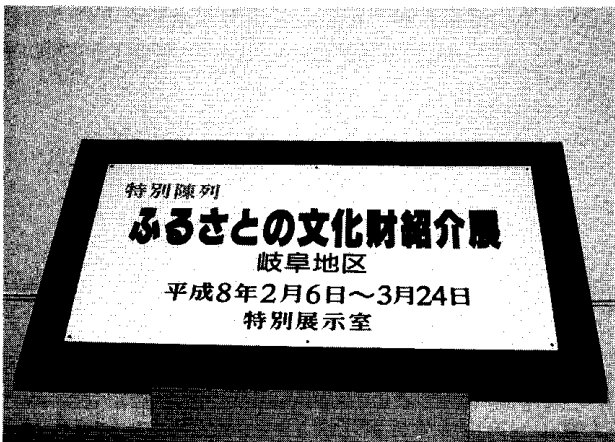
〈主な展示内容〉

（1）歴史資料に関する展示

岐阜市「絹本著色亀姫画像」。亀姫は徳川家康の長女であり、加納の初代城主奥平信昌の正室。在城24年、画像は仏門に帰依した晩年のものである。

笠松町「鮎鮠関係古文書」。岐阜の御鮎元で作られた鮎鮠が笠松経由で江戸の将軍に運ばれるまでの宿次が克明に記されている。

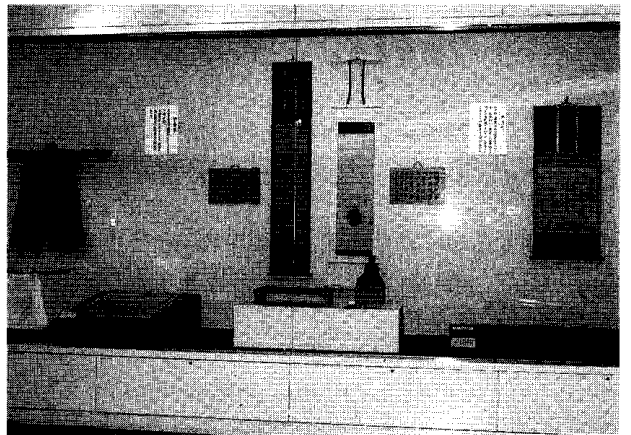
本巣町「尾張藩通行手形」。尾張藩が天保2年（1831）曾井中島の浄土真宗本願寺派正尊寺に贈ったものである。当地は江戸時代陣屋が置かれ、各村落を大垣藩、加納藩、尾張藩等が治めた。当時の本巣地方の支配や寺院の様子をこの「通行手形」をとおしてうかがうことができる。



（2）民間信仰に関する展示

柳津町「六十六部地蔵」。柳津町は古くから東西交通の要所であり、鎌倉街道の脇街道が高桑を通過し、多くの人々の往来があった。江戸期、法華経を書写し六十六の国々の主要な神社仏閣に奉納することで罪滅ぼしができるとの民間信仰がひろまった。当地でも罪滅の巡礼にでる六部の往来が盛んであった。結願の記念塔や供養塔が残っている。

糸貫町「長屋神社稚児舞使用道具」。稚児舞は長屋神社の祭礼行事の一つとして五穀豊穡、家内安全、疫病の退治を願い、幼児が中心となり山車の上で演じられる舞である。疫病退治の京都八坂神社の天王の信仰が各地に流布し、美濃の中心になったのが長屋神社であった。



（3）美術工芸に関する資料

根尾村「紺地白鷺文繡狩衣」。春日神社の能衣装である。刺繍で模様を表した桃山時代の数少ない狩衣である。鷺体部の針足は長く、柔らかな渡し繡や、草の葉を実際の形にこだわらず2、3の段に繡分ける表現方法などはこの時代に使われた刺繍方法である。鷺の様々な姿態が躍動的に表現された優れた意匠を示している。

（4）その他の文化財展示

各務原市「炉烟遺跡出土品」。縄文期の各務原台地における生活の営みが出土品によって理解できる。

岐南町「河野親鸞聖人御絵伝」。親鸞聖人ゆかりの旧跡を蓮如上人が訪れ、当地の門徒に与えた絵伝である。4幅のうちの1幅であり、親鸞の事跡が絵によって説明されている。

〈展示資料〉

展示資料総数60点

－内訳－

国指定文化財	1	県指定文化財	13
市町村指定文化財	23	無指定	23

本展の出品資料について、各市町村教育委員会や所蔵者から原稿をいただき、展示解説書を作成した。

〔調査研究・資料収集活動〕

ー自然部門ー

1 調査研究

〈動物分野〉

(1) 伊吹山系一帯の調査及び資料収集（動物）

国見峠～笹又～伊吹にかけて、ほ乳類や両性・ハ虫類の生態調査を行なった。

・ほ乳動物

ホンシュウジカ（シカ科）、ニホンイノシシ（イノシシ科）、ニホンリス、ニッコウムササビ（リス科）、ホンダタヌキ（イヌ科）

・ハ虫類

マムシ（クサリヘビ科）、ヤマカガシ（ユウダ亜科）、シマヘビ（ヘビ亜科）、カナヘビ（カナヘビ科）

・両生類

モリアオガエル（アオガエル科）、ヤマアカガエル（アカガエル科）、ヤマヒキガエル（ヒキガエル科）、イモリ（イモリ科）

(2) 伊吹山系一帯の調査及び資料収集（昆虫）

昨年に引き続き伊吹山系地域を中心とした昆虫類の調査を行なった。

ウスバシロチョウ（シロチョウ科）、アサギマダラ（マダラチョウ科）、キリシマミドリシジミ、ヒサマツミドリシジミ（シジミチョウ科）、ルリタテハ、サカハチチョウ（タテハチョウ科）、ギフチョウ（アゲハチョウ科）、イブキヒメギス、ヤブキリ（キリギリス科）、フキバツタの一種（イナゴ科）



ウスバシロチョウ

〈植物分野〉

(1) 伊吹の調査及び資料収集（植物）

継続研究として、昨年に引き続き伊吹一帯地域を中心とした植物相の調査を行なった。

昨年度すでに採集した貴重な植物については、採集せず、スライド等の二次資料にとどめた。

サラシナショウマ（キンポウゲ科）、クガイソウ（ゴマノハグサ科）、キバナノカワラマツバ（アカネ科）、キンバイソウ（キンポウゲ科）、イブキボウフウ（セリ科）、

ミツモトソウ（バラ科）、トモエソウ（オトギリソウ科）、モミジガサ（キク科）、イブキトラノオ（タデ科）、チゴユリ（ユリ科）、ラショウモンカズラ（シソ科）、イチリンソウ（キンポウゲ科）、ルイヨウボタン（メギ科）、ヒメフウロ（フウロソウ科）、ハウチャクソウ（ユリ科）、ヤマトグサ（ヤマトグサ科）、エンレイソウ（ユリ科）、ヤマブキソウ（ケシ科）、イブキノエンドウ（マメ科）、シュロソウ（ユリ科）、カノコソウ（オナエシ科）、イブキフウロ（フウロソウ科）、キバナノレンリソウ（マメ科）、イブキシモツケ（バラ科）、ツルキジムシロ（バラ科）、イブキコゴメグサ（ゴマノハグサ科）等の資料を収集し、このうち3割程度の標本を採集し、特別展「伊吹の自然（仮称）」の準備とした。



イブキコゴメグサ

(2) 白山調査及び資料収集（植物）

継続研究として、大倉山～大倉山～白山一帯を中心とした地域の植物相を調査した。

この地域は特に貴重な植物が多いことから伊吹地域と同様に、できるだけスライド等の二次資料にとどめた。

オガラバナ（バラ科）、ハリブキ（ウコギ科）、キヌガサソウ、バイケイソウ、ギョウジャニンニク（ユリ科）、ベニバナイチゴ（バラ科）、ハクサンフウロ（フウロソウ科）、イブキトラノオ（タデ科）、テガタチドリ（ラン科）、シナノキンバイ（キンポウゲ科）、ミヤマクワガタ（ゴマノハグサ科）、ハクサンコザクラ（サクラソウ科）、クロユリ（ユリ科）、イワカガミ（イワウメ科）、ゴゼンタチバナ（ミズキ科）、サンカヨウ（メギ科）、モミジカラマツ（キンポウゲ科）等の資料を収集した。



大倉山～白山までのお花畑（シモツケソウ、オオバキボウシ等）

〈地学分野〉

(1) 岐阜県恐竜化石学術調査(荘川村地域)

①調査の経緯

岐阜県大野郡白川村の大白川上流域に分布する手取層群の中からの恐竜足跡化石が発見されたこと(國光ほか, 1990)を契機として、1990年から大野郡白川村～荘川村地域において手取層群に関する広範な学術調査ならびに発掘調査が実施されてきた。(岐阜県恐竜化石学術調査委員会, 1993. 第2次岐阜県恐竜化石調査団, 1994)とりわけ、1994年には恐竜化石の産出する可能性が高い地点として荘川村の尾上郷川支流大黒谷中流域の1地点が選ばれ、そこで発掘調査が行われ、獣脚亜目に属する恐竜の歯をはじめとするいくつかの恐竜化石が採取された。(第三次岐阜県恐竜化石調査団, 1995)その成果を受けて、1995年には同じ地点で継続して発掘調査が実施された。



(掘削作業の様子)

②地質の概要および発掘経過

発掘地点は、大黒谷中流域にあたる大黒谷林道沿いの露頭(北緯 $36^{\circ} 02' 22''$ 、東経 $136^{\circ} 53' 31''$ 、標高約940 m)である。この地域周辺に分布する手取層群は、下位から大谷山累層、大黒谷累層、アマゴ谷累層、別山谷累層の4累層にわけられており(岐阜県恐竜化石学術調査委員会, 1993)、調査地点にはアマゴ谷累層の最下部層準にあたる厚さ約35 mの砂岩泥岩互層が分布する。

ア 発掘層の層準

発掘の対象となる地層は厚さ約1 mの細粒砂岩層であり、1994年には同層の上部から恐竜化石をはじめとする11点の脊椎動物化石を採取した。第3次岐阜県恐竜化石調査団(1995)はそれを便宜的に「恐竜化石含有層」と名付けた。

イ 発掘方法と経過

発掘作業は、1995年8月10日～12日、8月28日～30日、9月1日～3日、10月31日～11月2日の計12日間にわたって行った。

・掘削作業

重機を用いて「恐竜化石含有層」より上位にあたる露頭斜面を掘削して1994年の発掘時よりもさらに内部へ掘り進み、「恐竜化石含有層」の上層面を間口約8 m、奥行き約5 mにわたり露出させた。

「恐竜化石含有層」を厚さ70 cm～100 cmにわたって掘削し、総量約40 tの岩石をそのままトラックで搬出し、関市小屋名の百年公園まで運んだ。

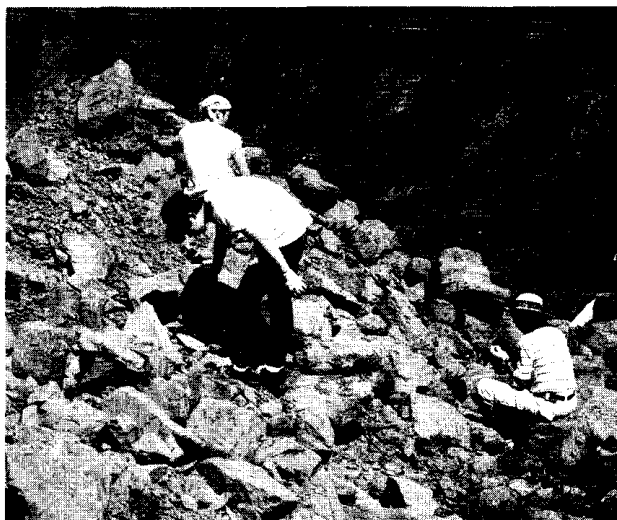
掘削作業に平行して露頭全体にわたる地質柱状図を再検討し、修正作業を行った。

・化石採取作業(8月28日～30日、9月1日～3日、10月31日～11月2日)

搬入した岩石を手作業で細片化しながら、含まれる化石の採取作業を行った。

・鑑定作業

11月上旬～1996年2月にかけて、採取された化石のクリーニング作業を行い、保存処理を行うとともに採取化石の鑑定ならびにリストの作成を行った。



(恐竜化石採取作業の様子)

③調査の結果

調査の結果、数多くの軟体動物化石、植物化石および脊椎動物化石を採取することができた。その中で、脊椎動物化石について詳しく触れる。

採取された脊椎動物化石は全部で15点である。これらのうち、恐竜化石は保存状態の悪い鳥脚亜目の歯1点である。このほかに、部位不明の脊椎動物の骨も採取されている。この地点から採取されている脊椎動物化石は、これまでのものを含めると35点であり、それらのうち恐竜化石は8点である。このほかにも、今後クリーニングが進むことで恐竜化石と確認される標本も増加するであろう。

これらの脊椎動物化石はいずれもが「恐竜化石含有層」の上部から、単体でしかも破損、摩耗して産出しており、軟体動物化石の産出が極めて少ないことが特徴である。

なお、本調査の詳細な報告は「岐阜県博物館調査研究報告」Vol.17に発表した。

(2) 岐阜県恐竜化石学術調査団(上宝村・神岡町地域)

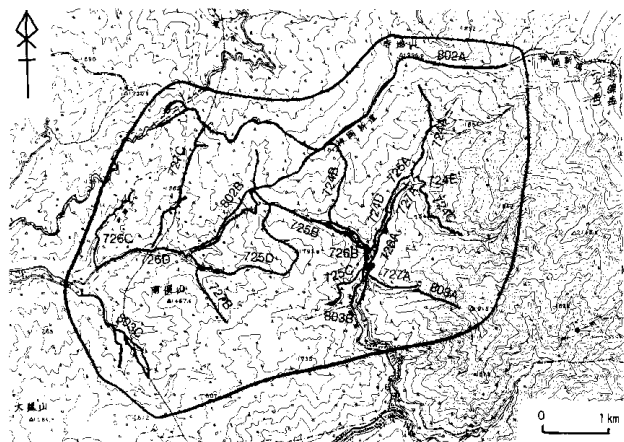
①調査団結成の経過

平成7年3月7日に、恐竜の卵化石が確認され、岐阜県産の可能性のあることが発表された。これを契機に、岐阜県では、恐竜の卵化石に結びつくような化石の産出の可能性のある上宝村から神岡町地域の手取層群を調査研究することとなった。岐阜県における手取層群や恐竜化石の調査研究は、すでに1990年以降、調査団を組織して進められているが、今回の調査は地域が大きく異なるため新規事業として取り組むことになった。

この岐阜県恐竜化石学術調査団は6月に結成され、7月～8月にかけて現地調査をすることになった。そして、その後の室内研究でまとめを行った。

②平成7年度の現地調査について

平成7年度の現地調査は、7月24日～28日と8月2日～4日にかけて、延べ8日間、61人で行った。調査員の現地での人数は、多い日で11人、少ない日で2/3 4人であった。調査地域は、北アルプスの山麓地域で地形が急峻なため、いくつかの調査班に分けて各班の山歩きの経験に応じて行った。調査班は、大きく地質班と化石班に分けたが、はじめての調査地域で化石産出層が明らかでないため、おもに地質調査を主体にして化石の産出層の発見をめざした。地質調査は図のようなルートで調査され、数地点で化石を採集することができた。今回の現地調査とその後の室内作業によって、神岡町北ノ俣川から山之村地域にかけての手取層群の層序や地質構造を、明らかにすることができた。



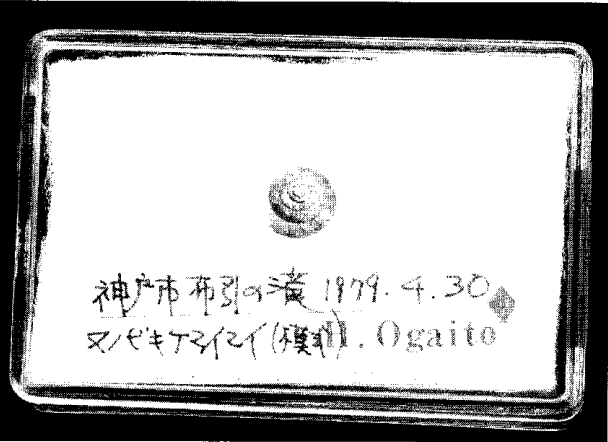
2 資料数一覧

(平成8年3月8日現在)

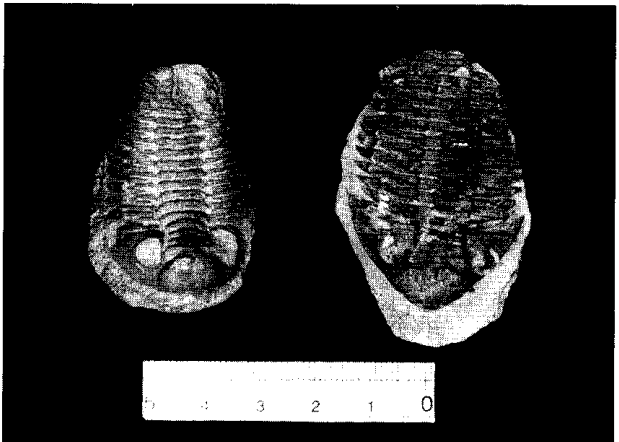
分野	館		蔵			借用	寄託	館蔵 借用 合計 寄託
	実物	複製	自作等 その他	館蔵数合計	()寄贈内数			
動物	30,960	16	129	31,105	(16,764)	12	0	31,117
植物	16,175	57	190	16,422	(2,615)	0	0	16,422
岩石・鉱物	2,083	5	73	2,161	(543)	18	0	2,179
化石	1,982	38	20	2,040	(1,078)	47	28	2,115
その他	63	22	168	253	(21)	0	0	253
計	51,263	138	580	51,981	(21,021)	77	28	52,086

3 資料寄贈者名一覧 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
オオクワガタムシ	2	小倉正治	カワムツ	4	田中宇元	ポリビア産三葉虫等化石標本	250	大野透太郎
ムササビ	1	金古弘之	ウシモツゴ	4	"	珪化木	3	山田菊夫
オオルリ	1	"	ホトケドジョウ	3	"	恐竜の卵化石	1	石田清一
キジ	1	大澤真美	メダカ	10	"	鍾乳石	1	児玉輝彦
カワバタモロコ	10	"	アリメカザリガニ	2	河野秀哉	岩石・鉱物標本	124	大垣内 宏
タイリクバラタナゴ	15	"	ビワコオオナマズ	1	琵琶湖文化館	植物の実の標本	5	"
スイゲンゼニタナゴ	4	小栗克彦	ビワヒガイ	1	"	飛騨産腐化植物標本	5	二村延夫
イチモンジタナゴ	4	"	アユ	20	岐阜県魚苗センター	ホザキヤドリギとデングス病植物	3	大平寿郎
カワヒガイ	3	"	アマゴ・イワナ	8	岐阜県水産試験場	カザグルマ	2	太田 惇
ニッポンバラタナゴ	3	"	サツキマス	2	"	大垣市植物標本	215	広田艶子
トンキントゲタナゴ	6	日比野直樹	アジメドジョウ	5	"	県内産シタ植物、ミズニラ等	10	村瀬正成
ゼニタナゴ	3	"	セグロアジサシ	1	郡上県事務所	水郷地帯植物標本	50	田中 太
アユカケ	1	田中宇元	フクロウ	1	林 光夫	針葉樹植物標本	5	小坂宮林署
ヌマチチブ	1	"	大垣内貝類標本	3037	大垣内 宏	植物標本(果実等)	5	野口 勇



▲大垣内氏貝類標本



▲ポリビア産三葉虫化石標本

— 人 文 部 門 —

1 調 査 研 究

＜考古分野＞

○平成7年度秋季特別展「美濃・飛騨の古代史発掘」に係る調査研究

前年度に続き、①古代の道と不破関、②律令国家の地方支配、③並び立つ古代寺院、④古代人の暮らし、⑤物の生産と流通、の5部門について文献調査、現地調査等を県内外各地の教育委員会、博物館や資料館等において実施した。

その成果を、特別展の図録、博物館講座「律令制下の美濃国・飛騨国」、岐阜県博物館調査研究報告Vol.17等の形で発表した。

＜歴史分野＞

○平成8年度飛騨美濃合併120周年記念展、「岐阜県の明治維新」に係る調査研究

①明治維新期における飛騨・美濃の動向と明治9年の合併の様子②衣食住における西洋文明の導入や新しい教育の様子③岐阜県における自由民権運動の盛衰④製糸業、金融業などの発展について文献資料調査、県内や愛知県、高知県、長野県等における現地調査を行った。

＜民俗分野＞

○平成7年度特別陳列「ふるさとの文化財紹介展—岐阜県地区—」に係る調査研究

岐阜県地区17市町村の協力を得て、各市町村の特徴がよく表れた文化財の調査研究をした。選定された文化財を平成8年2月6日から3月24日まで特別陳列として展示するとともに、研究成果を小冊子にまとめた。

○超古代文明調査研究

超古代文明についての文献資料等の調査をするともに、恵那地区において現地調査を実施した。

＜美術・工芸分野＞

○入定三百年記念「円空展」に係る調査研究

名古屋城学芸員等と共同で文献調査をするともに県内各地の円空仏等の現地調査をし、円空に関する資料の寄贈を受けた。また、円空展図録「円空」、後藤英夫写真集「円空さんとわたし」を作成した。

○平成9年度特別展「花と鳥のイリュージョン」に係る調査研究

美術工芸品—とくに江戸時代の衣装および本草学資料—における花や鳥をモチーフとしたものに関する文献資料調査を行った。

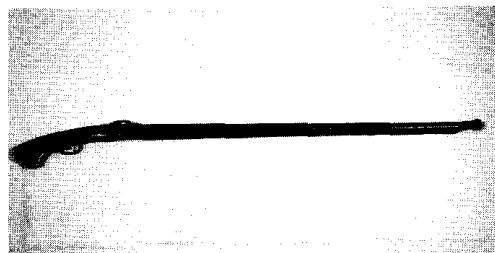
2 資 料 数 一 覧

分 野	館		蔵			借 用	寄 託	館蔵 借用 合計 寄託
	実 物	複 製	自作等 その他	館蔵数 合 計	() 寄贈・内数			
考 古	1,993	164	52	2,209	(1,797)	517	187	2,913
歴 史	1,359	34	122	1,515	(1,347)	21	162	1,698
民 俗	2,080	2	9	2,091	(2,075)	213	30	2,334
美術・工芸	303	17	37	357	(249)	259	1,219	1,835
そ の 他	0	0	0	0	(0)	0	1	1
計	5,735	217	220	6,172	(5,468)	1,010	1,599	8,781

複製には模型・ジオラマを含む（平成8年3月31日現在）

3 資料寄贈者名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名
マ ス ケ ス ト 火 縄 銃	1	ハロルド・ドレイク 和子・ドレイク
大 礼 服 ・ 将 校 軍 服	2	北 川 晃
岐阜県内小中高大の校章一式	1	県教育委員会文化課
教科書（明治時代）1セット	1	古 川 幸 夫
弾 丸	1	小 澤 正 之
扇 風 機	1	水 野 亘 雄
円空筆 富士山図・六字名号	2	藤 川 靖 司
脇差 銘 藤原長綱 ほか	10	真 田 孝 三
教 科 書 ・ 神 宮 暦	30	真 田 孝 三



マスケスト火縄銃

〔教育普及活動〕

1 概要

マイ・ミュージアム棟が開館し、新たに「マイミュージアムギャラリー」展示内容の広報、「ハイビジョンホール」を使用した催しものが加わった。また、恐竜ゼミナール、円空展を開催し、当初計画していた催しもの事業数を大きく上回り54事業を実施した。

出版物のカラー化を進めるとともに、博物館リーフレットや館内地図等を発行し来館者に親しめる博物館の教育普及事業を実施した。

2 教育活動

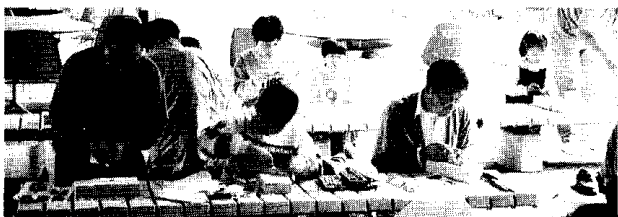
(1) 催しもの

催しものを大きく3つに分類した。一般を対象にした「博物館講座」。大人から子供まで楽しめる「自然観察会」。従来の「親子教室」と「たのしい土曜教室」を合わせた「たのしい博物館」である。

今年度の催しものから主な活動の概要を記すと、博物館講座では「日本仏教の流れ」と題し、4回の連続講座を実施した。毎回多くの受講者があり大変好評であった。このようにより深く学習できるスタイルの講座を今後も取り入れていく必要がある。

自然観察会は、自然部門を擁する当館としては欠くことのできない事業である。

観察会の中で、「鍾乳洞を探検しよう」は雨のため中止となった。



たのしい博物館「円空彫りに挑戦しよう」

たのしい博物館の事業として「円空彫りに挑戦しよう」を開催したが、この事業は「円空展」の関連事業として行ったものである。丹生川村円刀会の協力で彫刻刀やなたを使っての親子を対象とした教室であった。また、マイ・ミュージアムの開館にともなって、新たに「ハイビジョンで楽しもう」を定期的に開催した。この教室は幼児から大人まで楽しめるように工夫され、毎回多くの参加者があった。

昨年度に引き続き、福井県との交流事業「ジュニア恐竜探検隊」を催し、小学校5・6年生50名で構成された隊員が、福井市において全国の子供達と交流を深めた。定員50名に対し261名の応募があった。また、新規事業「恐竜ゼミナールGIFU'95」は4月になって具体化した事業のため計画から実施までの時間的ゆとりがなかったが、大変好評であった。(詳細は記事P27)

林政部との共催事業「きのこ王国岐阜体験ゼミナール」

も2年目を迎え、昨年度の反省を生かして実施したため、好評のうちに終了することができた。定員100名に対し1000名を越す応募者があった。

(2) 館内解説

マイ・ミュージアムの開館に伴って「マルチメディアスタジオ」での機器使用解説、「ハイビジョンホール」での土・日曜日のハイビジョンソフト「ハイパーハイビジョン風土記」の定例解説を行った。その他、団体の入館者を対象に、恐竜コーナー等での解説を行った。

博物館展示解説「ワンポイントガイド」を引き続き作成し、来館者に配布した。

(3) 博物館における学校等の研修

学校・社会教育機関等の授業や研修を学芸員が指導、援助した。

- ・ 小学校生活科体験学習 岐阜大学附属小1・2年生
岩野田小学校1年生他
- ・ 社会科体験学習 下有知小学校3年生他
- ・ 理科(地学)体験学習 下之保小学校6年生他
- ・ 関市少年少女科学教室、母と子のわくわく教室、下有知家庭教育学級など関市社会教育課と連携し博物館で講座を持った。

4 広報活動

新聞を中心に、テレビ・ラジオ等マスコミに対し積極的に広報した。新聞広告に対しても積極的に取り組み、従来の広告に加え中日新聞県内版等にも博物館広告を載せた。

また、特別展、資料紹介展等の紹介記事を、岐阜新聞で連載した。

博物館紹介リーフレットを作成し、各機関に配布するとともに、7月からオープンしたマイ・ミュージアムギャラリーの広報を開始した。

5 博物館実習生指導

8月23日から8月31日までの8日間、四国大学、聖心女子大学、甲南女子大学、静岡大学、皇學館大学、東京農業大学、奈良女子大学各1名、岐阜女子大学2名、合計9名で実施した。

6 資料の貸し出し

(1) 人文関係

- ・ 大阪府立近代飛鳥博物館(4/8~6/20)
円満寺山古墳出土銅鏡 2点
- ・ 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(7/14~9/8)
織田信長画像、齊藤道三画像 2点
- ・ 中日新聞岐阜総局(7/28~8/15)
太平洋戦争に関する資料 26点
- ・ 北方町立図書館(8/29~10/31)
円鏡寺 不動明王画像 1点
- ・ 愛知県陶磁資料館(10/2~12/3)
陽徳寺裏山1号墳出土、角杯、子持器台 2点

- ・奈良国立博物館、愛知県陶磁資料館（12/18～4/5）
養老神社経塚出土経筒、陶製経筒外容器、青白磁合子 3点

(2)自然関係

- ・福井県立博物館（4/26～10/24）
イグアノドン骨格模型、手取層産化石 42点
- ・鳥取県立博物館（7/1～7/16）
岐阜県産化石他 13点
- ・さばう遊学館（7/20～8/31）
昆虫標本 ドイツ箱13
- ・大垣市サイトピアセンター（8/1～9/12）
昆虫標本 ドイツ箱12

(3)教育普及

- ・名古屋市博物館（8/28～10/21）
棚橋源太郎著「目に訴へる教育機関」 1点

7 図書資料

7年度現在の図書資料数は下記のとおりである。

	図書資料数 平成8年度3月20日現在	備 考
人文関係	10,542冊	含刀剣文庫
自然関係	8,457冊	含棚橋源太郎文庫
総 計	18,999冊	

なお、平成8年3月、埋蔵文化財関係図書4,182冊を財
岐阜県文化財保護センターへ移管した。

平成7年度 刊行物一覧

名 称	発行年月日	判、頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第56号	7. 4. 1	A 4 4頁	2,500	友の会増刷 (各500)
岐阜県博物館だより 第57号	7. 7. 1	A 4 4頁	3,500	
岐阜県博物館だより 第58号	7. 10. 1	A 4 4頁	2,500	
岐阜県博物館報 第18号	7. 4. 1	A 4 37	1,000	友の会発行
平成7年度岐阜県博物館催しもの案内	7. 4. 1	A 4	30,000	
”	”	B 3	3,000	
入館者向けしおり	7. 4. 1	変形	50,000	
博物館リーフレット	7. 7. 16	A 4 8頁	5,000	
入館者案内地図	7. 8. 1	A 4	5,000	
岐阜県博物館調査研究報告, Vol.17	8. 3. 31	B 5 54頁	700	
特別展等図録				友の会増刷
岐阜の淡水魚	7. 4. 25	B 5 65頁	600	(1,000)
美濃・飛驒の古代史発掘	7. 10. 3	B 5 63頁	600	(1,154)
川に生きる	7. 4. 26	B 5 46頁	700	友の会発行
円空	7. 10. 13	A 4 159頁	2,000	円空展開催委員会
円空さんと私	7. 10. 13	A 4 50頁	1,300	友の会発行
輪中と治水	7. 11. 25	B 5 49頁	1,000	友の会発行
特別展等ポスター				友の会発行
岐阜の淡水魚 ポスター	7. 4. 1	B 2	1,500	友の会発行
” ちらし	”	B 5	25,000	
恐竜ゼミナール ポスター	7. 6. 12	A 2	2,000	
” ちらし	”	B 5	10,000	友の会発行 300
南米ボリビアの三葉虫 ポスター	7. 6. 20	B 2	700	
岐阜とユタ州の恐竜 ちらし	”	B 5	20,000	
美濃・飛驒の古代史発掘 ポスター	7. 9. 10	B 2	1,500	友の会発行
” ちらし	”	B 5	25,000	
円空 ポスター	7. 9. 30	B1, B2, B3	100,2,000,400	
” ちらし	”	A 4	160,000	円空展開催委員会
円空シンポジウム ちらし	7. 10. 16	A 4	5,000	友の会発行
ふるさとの文化財紹介展 ポスター	7. 12. 25	B 2	1,000	
” ちらし	”	B 5	20,000	
資料紹介展・特別陳列パンフレット				
岐阜の恐竜	7. 8. 9	A 4 8頁	500	
ふるさとの文化財紹介展	8. 2. 3	B 5 24頁	1,000	
マイ・ミュージアム刊行物				
マイ・コレクション 第1号	7. 7. 18	A 4 4頁	1,000	
” 第2号	7. 8. 26	A 4 4頁	1,000	
” 第3号	7. 11. 21	A 4 4頁	1,000	
” 第4号	8. 1. 5	A 4 4頁	1,000	
” 第5号	8. 2. 3	A 4 2頁	1,000	
” 第6号	8. 3. 3	A 4 2頁	1,000	
ギャラリー ポスター	7. 6. 26	B 2	1,000	
” ちらし	”	A 4	10,000	

8 恐竜ゼミナールGIFU'95

(1) 開設の契機

全国で大きな反響を呼んだ「岐阜県産と思われる恐竜の卵」の発見を機会に、全国の小学生が恐竜への夢とロマンを体験する企画として平成7年度から実施した事業である。

(2) 事業の内容

本事業は、岐阜県博物館内で恐竜や化石についての基本的な知識を学ぶ「恐竜教室」と上宝村、荘川村などで現地観察を主体とする「恐竜探偵団」の2部構成で実施した。



①恐竜教室の部

- ア 日程 8月21日(月)
8月27日(日)の2回実施
- イ 会場 岐阜県博物館ハイビジョンホールほか
- ウ 内容 ・ハイビジョンでの恐竜学習
・やさしい恐竜学講座
講師：東京大学名誉教授 濱田隆士
ブリガムヤング大学地球科学博物館
ケネス・リー・スタッドマン
館学芸員
・恐竜化石発掘体験
・恐竜紙細工教室
講師：造形作家 水野 政雄

②恐竜探偵団

- ア 日程 8月22日(火)
～8月23日(水)1泊2日
- イ 会場 上宝村、荘川村、七宗町
- ウ 内容 ・化石発掘調査、恐竜卵化石の見学
・日本最古の化石見学
・日本最古の岩石見学
・岐阜の恐竜についての講話など

(3) 事業実施の経過

①広報関係

関係機関へのポスター・チラシの配布に加え、参加者募集に係わる記者への資料配布を2回行い、開催中の「花フェスタ'95」のハイテク恐竜館にてチラシを配布した。さらに、岐阜県、愛知県の小学校に参加者募集の依頼をした。また、小学館刊「小学5・6年生」に参加者募集の広告を掲載した。

こうした広報活動の結果、全国から828名の応募者があった。

「恐竜ゼミナールGIFU'95」応募状況

名 称	定 員	応募状況	抽 選 結 果
恐竜探偵団	25組 50名	123組 264名	県内12組24名 県外13組26名
8月21日 恐 竜 教 室	125名	80組 242名	恐竜探偵団50名 を含む125名
8月27日 恐 竜 教 室	125名	116組 322名	127名

②実施状況

「恐竜教室」の部では、恐竜や化石について、濱田隆士教授、スタッドマン学芸員そして館学芸員がやさしく解説したあと、実際に荘川村の手取層の岩石を利用した化石発掘体験と「恐竜化石」について体系的な学習をした。また、ハイビジョンソフト「ロストアニマル」の上映や「恐竜紙細工教室」は小学生だけでなく大人も十分楽しめる内容であった。



「恐竜探偵団」の参加者50名は、「恐竜教室」の参加者から選ばれており、その成果を生かして化石採集などを行った。恐竜ゼミナールのテキストとして作成した「岐阜の恐竜」を参考にしつつ、上宝村、荘川村などで実りある現地観察会を実施した。

(4) 今後の方向

平成8年度は、上宝村との共催事業とし「恐竜教室」「恐竜探偵団」を一本化するよう検討を加えた。

平成7年度催しもの一覧

事業名	期日	対 象	定員	内 容	参加人員
特別展講演会	5/5			「減ひゆく日本の淡水魚」 琵琶湖文化館学芸員 前畑政善氏	94
	5/21			「長良川に生息する魚」 名古屋女子大学教授 駒田格知氏	100
	11/5			「古代寺院と瓦」 帝塚山大学教授 森 郁夫氏	130
特別展シンポジウム	10/15			「古代の美濃・飛騨を考える」 三重大大学教授 八賀 晋氏他	210
円空シンポジウム	11/4			「世界における円空」 在大阪ロシア連邦総領事 G・コマロフスキー氏 生活科学研究所所長 今野 由梨氏他	400
文化講演会	11/3			「教科書にない自然—古老の語り—」民俗研究家 脇田 雅彦氏	65
博物館講座	6/4			岐阜の淡水魚	56
	7/2			日本仏教の流れⅠ 大垣市文化事業団 大前匡昭氏	88
	8/27			岐阜の恐竜	126
	9/10			日本仏教の流れⅡ 大垣市文化事業団 大前匡昭氏	108
	9/23			岐阜の火山	8
	10/22			きのこの講話 朝日村秋神温泉 小林 繁氏 岐阜市立女子短期大学教授 森 基子氏	135
	11/19			律令制下の美濃国・飛騨国	70
	11/26			日本仏教の流れⅢ 大垣市文化事業団 大前匡昭氏	71
	1/28			日本仏教の流れⅣ 大垣市文化事業団 大前匡昭氏	73
	2/11			岐阜地区の文化財紹介	27
	2/18			岐阜の帰化植物	16
	3/17			岐阜地区の文化財紹介	12
自然観察会	4/8		50	チョウを観察しよう	18
	4/29		50	観察のこみちの樹木を調べよう(グリーンアドベンチャー事業)	118
	5/27		45	鍾乳洞を探検しよう	中止
	7/30		50	君もとれるノボリビアの化石	85
	8/1	小中生	40	夏の植物ウォッチングⅠ	14
	8/8	小中生	40	夏の植物ウォッチングⅡ	23
	1/6		10	冬の植物ウォッチング	10
	1/13		50	百年公園のバードウォッチング	18
	3/23		40	キノコ虫を観察しよう	41
ジュニア 恐竜探検隊 恐竜ゼミナール GIFU'95	8/10	小学5・6年生	50	探検!! 恐竜回廊'95 宿泊: 福井県立青少年センター	50
	~12				
	8/21	小学生と親	125	恐竜教室	125
	27		125	〃 東京大学名誉教授 濱田隆士氏他	127
	8/22	小学生と親	50	恐竜探検団 宿泊: 上宝村新平湯温泉	50
	~23			ブリガムヤング大学附属地球科学博物館副館長 ケネス・リー・スタッドマン氏他	
陶芸教室	9/15		30	茶碗 岡田孝司・春海氏	29
たのしい博物館	4/30		40	よろい・かぶとを着てみよう	41
	5/14		50	やきもの(日用品をつくろう)	73
	6/10		40	たのしい切り絵 今井 雅巳氏	24
	6/24		40	たのしい紙細工 水野 政雄氏	40
	8/8			クイズで探検!! 博物館	112
	8/20		50	竹細工(竹でおもちゃをつくろう) 石原 文雄氏	34
	9/9			ハイビジョンで楽しもう	88
	10/8			徳山のくらしを体験しよう	35
	10/14			ハイビジョンで楽しもう	140
	10/28		40	円空彫りに挑戦しよう 円刀会会員	46
	11/11			ハイビジョンで楽しもう	57
	11/25		50	版画で年賀状をつくろう	30
	12/9			ハイビジョンで楽しもう	20
	12/17		50	凧をつくってあげよう 石原 文雄氏	24
	12/23		40	わら細工(正月の飾りをつくろう) 大野 仁久氏	49
	1/27			ハイビジョンで楽しもう	71
	2/10		100	博物館の資料をかこう(写生会)	188
	2/24			ハイビジョンで楽しもう	71
	3/9			ハイビジョンで楽しもう	43
特別行事	5/3			ふるさと太鼓フェスタ'95 関孫六太鼓保存会ほか	650
	10/22	親 子	100	きのこ王国岐阜体験ゼミナール 共催: 県林政部	115
	1/7		200	七草がゆを食べよう	273

〔マイ・ミュージアム〕

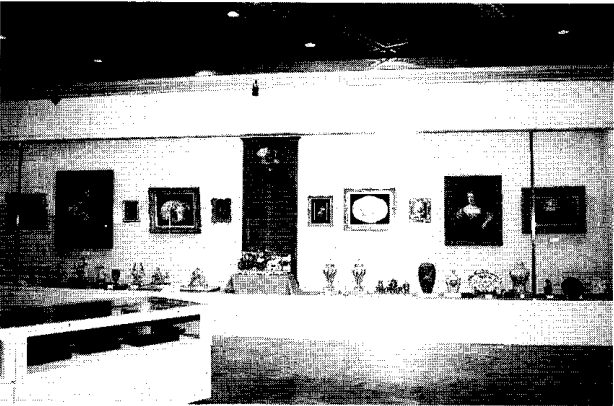
マイミュージアムギャラリーの運営

(1) 運営の概要

県民（在住、在勤、ゆかりの人）が収集・所蔵しているコレクションを募集し、一定期間、公開展示をする。マイミュージアムギャラリー企画運営委員会を通じて承認された展示計画に従って順次、展示を行う。また、出展者の募集は常時行っている。

(2) 平成7年度の展示状況

回	展 示 期 間	出 展 者	出 展 内 容
1	7月18日(火) 8月20日(日)	岩田 仲雄 小澤 善一	お数珠と古陶
2	8月26日(土) 10月1日(日)	井戸 誠嗣 大野 仁久	日本と世界の刃物 ―鉄錆の魅力―
3	11月21日(火) 12月17日(日)	各務今朝一 ^{けさいち}	西洋の古美術と ガンダーラ
4	平成8年 1月5日(金) 1月28日(日)	可児 幸彦 守ヶ洞雅彦	レンズ付きフィルム 紙の宝石(書・浮世絵)
5	2月3日(土) 2月25日(日)	梅村 信芳	村瀬秋水墨跡展
6	3月2日(土) 3月24日(日)	安田 学石	仏像・仏画の世界



(3) 展示記録「マイ・コレクション」の発行

・「マイ・コレクション」を各回の展示ごとに発行し、平成7年度は第1号から第6号まで発行した。

(4) 同人証発行について

出展者は博物館同人とし、8人に同人証を交付した。

(5) 平成7年度に出展申し込のあったもの

木彫り（根、干支、能面など）、鏡、手編みセーター、織物の糸、屏風、掛軸、踊り人形、踊りうちわ・手ぬぐい、絵画、版画、民具、武具、土器、手斧、布など。
合計 9件。

(6) マイミュージアムギャラリー企画運営委員会

10月30日 本館研修室で開催

○課題 マイミュージアムギャラリー運営の基本方針及び平成8年度展示計画について

- ・運営の基本方針
出展品の真贋・解説文などは出展者の責任とする。
出展者の氏名は明記する。
図録作成はしない。
保険については相談のうえ決定する。
出展者の地域的偏りがないようにする。

○委員の構成

	氏 名	役 職
委員	浅野 勇	岐阜県市長会長
"	糸魚川淳二	名古屋大学名誉教授
"	岩田 仲雄	収集家代表
"	加藤 郁子	岐阜県地域婦人会連合会会長
"	清水 敏郎	岐阜県町村長会長
"	嶋崎 藤雄	岐阜県公民館連合会長
"	菅沼 武	岐阜県議会文教警察委員長
"	辻 欣一	岐阜県社会教育委員連絡協議会長
"	船戸 政一	関市教育委員会教育長
"	松本 五三	岐阜県博物館協会理事長
"	横山勢津男	前岐阜県博物館長
"	吉田 豊	岐阜県芸術文化会議会長

会長は吉田豊氏、副会長は松本五三氏が継続就任。

2 マルチメディア情報センター

マイ・ミュージアムのオープンに伴い、マルチメディアの普及啓発を目的とした、全国6か所のマルチメディア情報センターのひとつとして、ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」をはじめとする映像情報の提供やソフト制作の支援を開始した。

企画運営にあたっては、情報センター連絡会議、県マルチメディア研究会、ソフトピアジャパン、博物館サポーター等から助言やソフト制作への支援をして頂いた。また、利用促進を図るため、関係サークルや高等学校に呼びかけ、設備紹介や高校生の体験実習を受け入れた。

(1) ハイビジョンホールの運営

高精細大画面による映像体験の場として、ハイパーハイビジョン風土記「ひだ・みの紀行」の紹介や各種映像資料の上映を行ったほか、資料提示機能を活用して各種イベントや講座・教室にも利用した。

- ・上映時間 平日 11:00～16:00
土・日曜日、祝日 開館時刻～16:00

・本年度の主な上映作品

ハイパーハイビジョン風土記美濃路映像資料(60分)
岐阜県制作ハイビジョン動画4作品(60分)
岐阜県制作ハイビジョン静止画4作品(50分)
花フェスタ'95記念映像(45分)
手づくりハイビジョンソフト5本(約30分)
ハイビジョン試験放送の番組(60分程度)
向井千秋の宇宙教室①②(NTSC)(60分)

・イベントや講座等での活用事例

ハイパーハイビジョン風土記の操作法等紹介(毎日)
たのしい博物館「ハイビジョンで楽しもう」
恐竜ゼミナールGIFU'95
きのこ王国岐阜体験ゼミナール



(2) マルチメディアスタジオの運営

個人がハイパーハイビジョン風土記の資料を自由に検索できるレファレンスブースについて、業務嘱託員によ

る操作法の説明を個別に行い、子供から高齢者まで幅広い年代層の方々に気軽に利用して頂いた。

- ・利用時間 開館時間より16時まで

(3) 制作室(マルチメディア工房)の運営

県民のマルチメディア制作支援の場として、ハイビジョン静止画番組制作装置の使用を開放した。博物館同人から借りた写真をもとに、博物館サポーターがソフト制作した。また、市町村関係者や高校生の利用もあった。使用料金については、同様設備を持つ未来会館や美術館と協議を進めて決定し、10月1日には、「マルチメディア工房・ぎふ」の第1号として正式にオープンした。なお、制作室は、古く貴重な写真をデジタルで保存するライブラリーとしての位置づけもなされている。

・実施したソフト制作研修会

博物館協会研修会(12月14日)

高校生マルチメディア体験実習(1月25日)

博物館職員研修会(1月17日、24日、2月14日、27日)

- ・「マルチメディア工房・ぎふ」使用料金(1時間あたり)
非営利の場合480円、営利の場合4,430円

(4) マルチメディア共同利用実験への参加

他のマルチメディア情報センターや長野県丸子町のマルチメディア研究センター等との間で、N T Tの高速回線を利用したマルチメディア情報交流実験に参加するため、それまでなかった通信機能を整備した。実験では、情報発信に関わるノウハウを蓄積し、平成9年度には、教育情報ネットワーク(SMILE)やインターネットに接続して、博物館資料を学校や一般県民に向けて提供する計画である。

・導入機器

マルチメディアデータサーバ
ノンリニアビデオ編集装置
M P E G圧縮装置、ビデオサーバ
検索端末装置、ネットワーク機器

・実験予定内容

ビデオオンデマンド
センター紹介ビジュアルドキュメントの共同制作
マルチメディア会議

(5) ハイパーハイビジョン風土記の整備

今年度は、美濃路編検証のための研究会の実施、中山道編の基礎資料調査を行った。なお、風土記については、世界初のハイビジョンによるインタラクティブソフトということで、多くの自治体や関係団体から注目を浴び、業界の2つの賞を獲得した。

- ・ハイビジョンアワード 選定委員長賞
- ・マルチメディアグランプリ'95 ハイビジョン部門パブリック作品賞

〔図書資料寄贈者芳名一覧〕

(平成7年3月1日～
平成8年2月29日)

〔博物館関係〕

国立歴史民俗博物館
東京国立博物館
国立科学博物館
東京国立近代美術館
国立科学博物館附属自然教育園
京都国立博物館
国立民族学博物館
奈良国立博物館
北海道開拓記念館
北海道立北方民族博物館
小樽市博物館
釧路市立博物館
苫小牧市博物館
市立函館博物館
根室市博物館開設準備室
上士幌町ひがし大雪博物館
斜里町立知床博物館
穂別町立博物館
浦幌町郷土博物館
利尻町立博物館
青森県立郷土館
八戸市博物館
岩手県立博物館
北上市立鬼の館
岩手県農業博物館
仙台市博物館
仙台市科学館
斎藤報恩会自然史博物館
仙台市歴史民俗資料館
鹽竈神社博物館
東北歴史資料館
秋田県立博物館
秋田県立近代美術館
山形県立博物館
県立うきたむ風土記の丘考古資料館
福島県立博物館
会津民俗館
三春町歴史民俗資料館
茨城県立歴史館
土浦市立博物館
上高津貝塚ふるさと歴史の広場
日立市郷土博物館
ミュージアムパーク茨城県自然博物館
栃木県立博物館
小山市立博物館
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
栃木県立なす風土記の丘資料館
群馬県立歴史博物館
群馬県立近代美術館
浦和市立郷土博物館
埼玉県立博物館
埼玉県さきたま資料館
戸田市立郷土博物館
埼玉県立歴史資料館
千葉県立中央博物館
千葉市立郷土博物館
千葉市加曽利貝塚博物館
我孫子市鳥の博物館
市立市川考古博物館
市立市川自然博物館
千葉県立現代産業科学館
千葉県立大根博物館
千葉県立上総博物館
千葉県立安房博物館
松戸市文化ホール
千葉県立総南博物館
千葉県立房総のむら
千葉県立房総風土記の丘
足立区立郷土博物館
板橋区立郷土資料館
大田区立郷土博物館
紙の博物館
船の科学館
渋谷区立松涛美術館
たばこと塩の博物館
東京都江戸東京博物館
世田谷区立郷土資料館
家具の博物館
通信総合博物館
豊島区立郷土資料館
三井文庫
港区立港郷土資料館
サントリー美術館
江戸東京たてもの園
多摩六都科学館
八王子郷土資料館
府中市郷土の森博物館
JRA競馬博物館
町田市立博物館
町田市立国際版画美術館
神奈川県立歴史博物館
神奈川県立金沢文庫
馬の博物館
横浜マリタイムミュージアム
横浜市歴史博物館
川崎市市民ミュージアム
神奈川県立生命の星・地球博物館
平塚市博物館
茅ヶ崎市文化資料館
秦野市立桜上戸古墳展示館
横須賀市自然人文博物館
箱根町立大湧谷自然科学館
松本市立博物館
日本民俗資料館
長野市立博物館
長野県立歴史館
飯田市美術館
飯田市上郷古博物館
上田市立博物館
大町山岳博物館
塩尻市立平出遺跡考古博物館
須坂市立博物館
信濃町立野尻湖博物館
信州新町化石博物館
柏崎市立博物館
長岡市立科学博物館
富山市郷土博物館
富山市科学文化センター
魚津水族館
富山県立山博物館
石川県立歴史博物館
石川県立美術館
石川県輪島漆芸美術館
石川県白山自然保護センター
福井県立博物館
福井市自然史博物館
福井県自然保護センター
敦賀市立博物館
静岡県立美術館
静岡市立登呂博物館
上原仏教美術振興財団
下田海中水族館
沼津歴史民俗資料館
沼津市明治史料館
富士市立博物館
三島市郷土館
焼津市歴史民俗資料館
浜松市博物館
愛知県美術館
愛知県芸術文化センター
徳川美術館
熱田神宮宝物館
名古屋市博物館
名古屋市科学館
名古屋市美術館
でんきの科学館
名古屋港水族館
一宮市博物館
博物館明治村
リトルワールド
日本モンキーセンター
瀬戸市歴史民俗資料館
愛知県陶磁資料館
豊田市郷土資料館
豊橋市美術博物館
豊橋市自然史博物館
豊橋市地下資料館
豊橋市二川宿本陣資料館
岡崎市教育委員会岡崎市郷土館
安城市歴史博物館
知立市歴史民俗資料館
半田市立博物館
尾西市歴史民俗資料館
碧南市青少年海の科学館
トヨタ博物館
鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館
愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
三重県立博物館
四日市市立博物館
桑名市博物館
海の博物館
鳥羽水族館
斎宮歴史博物館
藤原岳自然科学館
大津市歴史博物館
滋賀県立琵琶湖文化館
琵琶湖博物館開設準備室
彦根城博物館
市立長浜歴史博物館
滋賀県立安土城考古博物館
滋賀県立陶芸の森
栗東歴史民俗博物館
滋賀県立朽木いきものふれあいの里
京都府立総合資料館
京都府京都文化博物館
博物館さがの人形の家
京都府立丹後郷土資料館
大阪市立博物館
大阪市立東洋陶磁器美術館
大阪人権博物館
吹田市立博物館
大阪府立弥生文化博物館
堺市博物館

柏原市立歴史資料館
岸和田市立郷土資料館
大阪府立近つ飛鳥博物館
神戸市立博物館
神戸市立小磯記念美術館
兵庫県立歴史博物館
姫路文学館
尼崎市歴史博物館準備室
伊丹市立博物館
兵庫県立人と自然の博物館
大和文華館
橿原市千塚資料館
県立橿原考古学研究所附属博物館
香芝市二上山博物館
市立五條文化博物館
奈良県立民俗博物館
和歌山県立博物館
和歌山市立博物館
和歌山県立自然博物館
鳥取県立博物館
足立美術館
岡山県立博物館
岡山県立美術館
岡山市立オリент美術館
林原自然科学博物館準備室
津山洋学資料館
倉敷市立自然史博物館
広島市安佐動物公園
広島市交通科学館
広島県立美術館
広島県立歴史博物館
日本はきもの博物館・郷土玩具博
広島県立歴史民俗資料館
宮島町立宮島歴史民俗資料館
山口県立山口博物館
美祢市歴史民俗資料館
秋吉台科学博物館
徳島県立博物館
徳島市立徳島城博物館
高松市歴史資料館
香川県歴史博物館建設準備室
愛媛県立博物館
愛媛県総合科学博物館
愛媛県歴史文化博物館
高知市立自由民権記念館
高知県立歴史民俗資料館
北九州市立歴史博物館
北九州市立考古博物館
北九州市立自然史博物館
福岡市博物館
九州歴史資料館
鞍手町歴史民俗資料館
佐賀県立博物館／美術館
佐賀県立名護屋城博物館
長崎県立美術博物館
長崎市立博物館
熊本市立熊本博物館
熊本県立美術館
八代市立博物館未来の森ミュージアム
宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
宮崎県総合博物館
鹿児島県立博物館
鹿児島市立美術館
鹿児島県歴史資料センター黎明館
ミュージアム知覧
岐阜県歴史資料館

岐阜県美術館
岐阜県図書館
岐阜県陶磁資料館
岐阜市歴史博物館
岐阜市科学館
浅見化石会館
各務原市歴史民俗資料館
内藤記念くすり博物館
大垣市郷土館
大垣市歴史民俗資料館
大垣市輪中館
タライピアセンター
美濃和紙の里会館
七岐市美濃陶磁歴史館
瑞浪市化石博物館
瑞浪市陶磁資料館
半原版画館
高山市郷土館

〔博物館協会〕
全国科学博物館協議会
全日本博物館学会
東海地区科学施設協議会
愛知県博物館協会

〔役所関係〕
福島市児童文化センター
いわき市教育文化事業団
埼玉県立民俗文化センター
文化庁文化財保護部
日本科学技術振興財団
七尾市役所
愛知県総務部
名古屋営林支局
名古屋植物防疫所
木曽川下流工事事務局
京都府総合府民部
岐阜県総務部
岐阜県企画部
岐阜県商工労働部
岐阜県農政部
岐阜県地方自治大学校
岐阜県保健環境研究所
岐阜県工業技術センター
岐阜県工芸試験場
岐阜県農業総合研究センター
岐阜県水産試験場
岐阜県国際交流センター
岐阜県広報センター
岐阜県デザイン振興会
岐南町役場
川辺町史編さん室
多治見市史編さん室
土岐市役所
古川町役場
川島町民会館
大垣市立図書館
岐阜簡易保険事務センター

〔教育委員会関係〕
北海道教育庁
東京都教育庁
世田谷区教育委員会
港区教育委員会
神奈川県教育庁
相模原市教育委員会

春日井市教育委員会
一宮市教育委員会
四日市市教育委員会
龟山市教育委員会
安濃町教育委員会
滋賀県教育委員会
山東町教育委員会
田辺町教育委員会
能勢町教育委員会
橿原市教育委員会
鳥取県教育委員会
山陽町教育委員会
長崎県教育庁
大分県立先哲史料館
岐阜県教育委員会
西濃教育事務所
美濃教育事務所
東濃教育事務所
飛騨教育事務所
岐阜県教育センター
岐阜県情報処理教育センター
グリーンテクノセンター
岐阜県文化財保護センター
同和岐阜県民会議
岐阜県生涯学習センター
真正町教育委員会
大垣市教育委員会
大野町教育委員会
池田町教育委員会
関市教育委員会
美濃加茂市教育委員会
多治見市教育委員会
瑞浪市教育委員会
恵那市教育委員会
山岡町教育委員会
高山市教育委員会
岐阜市少年自然の家
関ヶ原青少年自然の家
御嶽少年自然の家
岐阜県小中学校長会
岐阜県高等学校長協会
岐阜県PTA連合会

〔学校関係〕
秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館
山形大学附属博物館
筑波大学歴史人類学系
図書館情報大学附属図書館
川村学園女子大学図書館
国学院大学博物館学研究室
国学院大学考古学資料館
東京農業大学農業資料室
日本大学文理学部応用地学教室
明治大学刑事博物館
明治大学考古学博物館
明治大学商品陳列館
明治大学学芸員養成課程
学習院大学
お茶の水女子大学学芸員課程
東京大学地震研究所
多摩美術大学美術学部
実践女子大学博物館学研究室
東京家政学院生活文化博物館
国際基督教大学湯浅二郎記念館
神奈川大学日本常民文化研究所
東海大学校地内遺跡調査団

帝京大学山梨文化財研究所
金沢美術工芸大学図書館
静岡大学理学部地球科学教室
東海大学海洋科学博物館
南山大学人類学博物館
名古屋大学古川総合研究資料館
名古屋大学美学美術史研究室
名古屋大学大気水圏科学研究所
名古屋女子大学
名古屋女子大学淡水魚類研究会
市邨学園大学人文科学研究会
市邨学園地域社会研究会
市邨学園自然科学研究会
愛知大学総合郷土研究所
愛知大學文學會
名古屋造形芸術大学図書館
京都大学文学部考古学研究室
京都工芸繊維大学美術工芸資料館
同志社大学博物館学芸院課程
立命館大学国際平和ミュージアム
仏教大学総合研究所
関西大学博物館
大阪大学文学部考古学研究室
大阪音楽大学付属楽器博物館
近畿大学民俗学研究所
天理大学附属大理参考館
九州産業大学芸術学会
別府大学附属博物館
岐阜県高等学校生物教育研究会
岐阜県高等学校地学教育研究会
岐阜県高等学校理科助手研究会
岐阜第一女子高等学校
羽島高等学校
加茂高等学校
大垣日本大学高等学校
麗澤瑞浪高等学校
関養護学校
岐阜大学教育学部
岐阜薬科大学
岐阜市立女子短期大学
岐阜女子大学
聖徳学園岐阜教育大学
東海女子大学
聖徳学園女子短期大学
中京短期大学
中部女子短期大学
岐阜医療技術短期大学

〔研究機関・出版社・その他〕

東京国立文化財研究所
国立教育会館社会教育研修所
宮内庁書陵部
国立劇場調査養成部資料課
宮内庁正倉院事務所
奈良国立文化財研究所
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
北海道立アイヌ民族文化研究センター
北網圏北見文化センター
図書館会
青森県埋蔵文化財調査センター
あきた結び文化研究会
群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本研究所
高橋直服先生著書刊行会
葛飾区遺跡調査会
日本ユネスコ協会連盟

飯田町遺跡調査会
日本昆虫協会
古文化財科学研究会
河川環境管理財団
ポーラ文化研究所
味の素食の文化センター
都立学校遺跡調査会
科学技術広報財団
溜池・駒込間遺跡調査会
河川情報センター
青少年交友協会
日本ナショナルトラスト
三貴
東京貝類同好会
練馬区遺跡調査会
都内遺跡調査会
センチュリーミュージアム
丹青総合研究所・文化空間研究所
ニューメディア開発協会
宇宙開発事業団
金属鉱業事業団資源情報センター
世界自然保護基金日本委員会
武蔵考古学研究所
西国分寺地区遺跡調査会
東京都埋蔵文化財センター
落川・一の宮遺跡調査会
ココロ
日野市落川遺跡調査会
都営川越道住宅遺跡調査会
府中病院内遺跡調査会
日本製鋼所遺跡調査会
町田木曾森野地区遺跡調査会
神奈川県立埋蔵文化財センター
玉川文化財研究所
川崎市立日本民家園
横須賀市遺跡調査団
神奈川県立自然保護センター
長野県埋蔵文化財センター
富山県埋蔵文化財調査事務所
富山県埋蔵文化財センター
富山市ファミリーパーク公社
静岡県埋蔵文化財調査事務所
愛知県文化振興事業団
中部産業活性化センター
中部建設協会
美術文化史研究会
行動と文化研究会
瀬戸市埋蔵文化財センター
豊橋市埋蔵文化財調査事務所
愛知県埋蔵文化財センター
津市埋蔵文化財センター
三重自然誌の会
三重動物学会
三重県埋蔵文化財センター
滋賀県埋蔵文化財協会
日本イヌワシ研究会
木地屋とろくろ研究所
坂田郡社会教育学文化財部会
京都服飾文化研究財団
古代学協会
国際日本文化研究センター
道修町文書保存会
日本生命財団
大阪府文化財調査研究センター
クボタ
のじぎく文化財保護研究財団

黒川古文化研究所
元興寺文化財研究所
シルクロード学研究センター
岡山県自然保護センター
広島城
草戸千軒町遺跡調査研究所
巖島神社社務所
福岡市埋蔵文化財センター
鹿児島県立埋蔵文化財センター
岐阜県郷土資料研究協議会
岐阜県歴史資料保存協会
岐阜県文化財保護協会
中山道加納宿文化保存会
岐阜県古文書研究会
岐阜市教育文化振興事業団
岐阜史学会
岐阜県植物研究会
慈斎研究会
各務原市埋蔵文化財調査センター
各務原市文化財を守る会
岐阜県昆虫同好会
養老町文化財保護協会
東海地理研究会
美濃民俗文化の会
靈山顕彰会岐阜県支部
地域経済研究所
岐阜県哺乳動物調査研究会
八幡町文化財保護協会
美濃文化財研究会
多治見市文化財保護センター
土岐市埋蔵文化財センター
高山市歴史研究会
飛騨考古学会
芸術出版社
美術倶楽部
日本美術刀剣新聞社
東京美術
中信美術奨励基金
講談社
コクヨ
美濃揖斐谷通信編集室
郡上史談会

〔個人〕
Prof.Dr.Wolfgang Bauman

柘植千夏
加藤元人
犬塚康博
鈴木重雄
大塚寅雄
山田勝弘
高橋伊佐夫
船越進太郎
笠原芳雄
和田吉弘
清水昭男
宮崎 惇
吉村 典
川瀬仙吉
小林文治
加藤芳明
新井弘子
加藤正和
中川栄太郎

〔利用状況〕

1 入館者数

本年度は、入館者数73,812人、前年度に比べて約48.5%の増加となった。これは、特別展「岐阜の淡水魚」と「美濃・飛騨の古代史発掘」及び、マイ・ミュージアム棟開館による影響が大きかった。

また、開館日数は304日であり、1日平均の入館者数は243人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。

1日の入館者が最も多い日は、5月5日で、1,488人を数えた。

団体入館者数をみると、団体4,292人で入館総数の約5.8%であった。月別では3月が最も多く、団体入館者全体の約42.7%を占めている。

月	小中生	高大生	一 般	計	開館日数	一日平均
4	2,587	809	2,643	6,039	26	232
5	2,647	919	7,016	10,582	26	407
6	935	143	3,108	4,186	26	161
7	1,506	244	3,123	4,873	26	187
8	3,701	295	4,821	8,817	27	327
9	1,192	101	2,953	4,246	26	163
10	6,825	166	6,445	13,436	26	517
11	2,551	154	5,632	8,337	26	321
12	499	55	1,426	1,980	22	90
1	854	104	1,397	2,355	21	112
2	885	77	2,167	3,129	25	125
3	1,798	1,244	2,790	5,832	27	216
計	25,980	4,311	43,521	73,812	304	243

特別展期間中に入館者数は、右表のとおりである。入館者総数は36,636人にあたる。また、1日平均は436人であった。

特別展名	期 間	小中生	高大生	一 般	計
岐 阜 の 淡 水 魚	4/25～6/11	5,019	1,535	9,914	16,468
美濃・飛騨の古代史発掘	10/3～11/19	8,873	220	11,075	20,168
計		13,892	1,755	20,989	36,636

2 施設利用

今年度の講堂及び研修室の利用者は、次のとおりであった。

〈講堂〉

4/21	県営公園事務所長等会
5/14	岐阜県ほ乳動物調査研究会
11/3	円空学会
1/28	岐阜歩こう会
2/22	マルチメディア情報センター連絡会

〈研修室〉

9/5	岐阜県高等学校長協会
10/13	本巣郡中教研美術部会
11/8	岐阜県高等学校教育研究会生物部会
11/14	岐阜県理科数設置校研究協議会
12/3	岐阜県身体障害者福祉協会
2/3	岐阜県高等学校理科研究会
3/24	東海地理研究会

〔博物館関係団体〕

1 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。

公開講座（年4回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うように努力した。

平成8年3月現在、会員館園は131、個人会員は22名、主な役員は次のとおり。

名誉会長…梶原拓 会長…浅野勇 副会長…青木允夫 土野守、清水廣美、理事長…松本五三 事務局は岐阜県博物館内にある。

〈主な事業〉

5/12	第1回役員会及び通常総会
5/21	第64回公開講座

6/15	第31回会員研修会
6/20～21	東海地区博物館連絡協議会総会
8/1	機関紙「岐阜の博物館」第110号発行
8/19	第65回公開講座
9/20～21	第32回会員研修会
10/4～5	東海三県博物館協会交流研修会
10/26～27	第43回全国博物館大会
11/1	機関紙「岐阜の博物館」第111号発行
11/19	第66回公開講座
12/14	第33回会員研修会
1/21	第67回公開講座
1/21	公開講座委員会
1/30	機関紙「岐阜の博物館」第112号発行
2/16	会員研修委員会
3/11	常任理事会
3/31	機関紙「岐阜の博物館」第113号発行

2 岐阜県博物館友の会

設立13年目を迎えた友の会は、会員の増加を見ることができ、一般会員556名、後援会員31口を数えた。会員個々の生涯学習活動への旺盛な参加意欲とともに、岐阜県博物館を側面から支える友の会活動への期待を現わす結果となった。

事業内容、研修内容も徐々に充実し、密度の濃いものとなったことを参加者の増加で裏付けることができた。

会員の要望が大きい主催事業の探訪の旅は、第3回海外探訪の旅として「中国の文化と遺跡を訪ねて」を行った。北京（万里の長城、明十三陵、故宮博物院、天壇公園ほか）、洛陽（龍門石窟、閼林、洛陽博物館ほか）、西安（大雁塔、西門、碑林博物館、兵馬俑博物館、始皇帝陵ほか）を見学し、各施設職員から直接解説を聴く機会を持ち、参加者一同大きな感銘を受け、中国の歴史と伝統の重みを深く研修することができた。



洛陽「龍門石窟・奉先寺大仏前にて」

海外探訪の旅については、引き続き実施の要望が強く、平成8年度はイギリス研修実施を検討している。

国内探訪の旅は、関西、北陸方面の旧跡探訪を中心に3回を実施した。いずれもバス内で博物館学芸員などによる、歴史的背景を含めた解説を行って好評を得、定員を越える参加希望者があり盛況な研修会となった。

また、参加者へのアンケート調査を実施し、次年度以降の探訪先や研修のあり方などを策定する参考資料を得た。

第6回文化講演会は、民俗研究家の脇田雅彦氏を招き「教科書にない自然」と題する講演をいただき、会員を中心に約100名の参加者が聴講した。

特別行事「七草がゆを食べよう」は、会員の手作り行事として定着しており、当日は多くの七草ファンが来館し美味しく炊きあがった「かゆ」を食べ、和気あいあいのうちに一年の無病息災を祈った。

博物館事業の普及活動としては、春・秋の特別展の図録などの作成や需要の多い図録の増刷を行い、県情報サロンや木曽三川公園などに販売を委託し、広く県民に購読を願った。



会員がボランティアとして活躍した「七草がゆ」

本年度は、岐阜県博物館の運営に関する「5則」が制定された。「博物館事業の普及、会員相互の教養と親睦」を深めることを目指した友の会の活動が「魅力ある博物館」「誰でも気軽に参加できる博物館」の健全な運営の一翼を担うことができるよう、一層の創意工夫を進めた企画を実施していきたい。

平成7年度の主な事業、行事は次のとおりである。

1 会 議

役員会・理事会 4月29日

友の会総会 4月29日

三役会 10月18日、2月14日、3月26日

2 研修事業

(1)探訪の旅

中国の文化と遺跡を訪ねて 6/2～6/8 55名

平城宮跡と三月堂・戒壇院 9/3 130名

吉崎御坊と北前船の里 11/12 118名

湖東三山 3/10 160名

(2)文化講演会

「教科書にない自然」 11/3 100名

3 会報発行

第43号～45号各500部 B5 6頁

4 資料など作成頒布

(1)特別展図録「岐阜の淡水魚」 1,000部

「美濃・飛騨の古代史発掘」 1,154部

(2)図録増刷「川に生きる」 700部

「輪中と治水」 1,000部

(3)岐阜県博物館総合案内などの頒布

5 その他

(1)博物館との共催事業の実施

特別行事「ふるさと太鼓フェスタ」「七草がゆを食べよう」、たのしい博物館「博物館の資料をかこう」、博物館講座「日本仏教の流れ」など

(2)会員入館料の補助

特別展、常設展入館料

Ⅳ 利 用 案 内 (平成8年度)

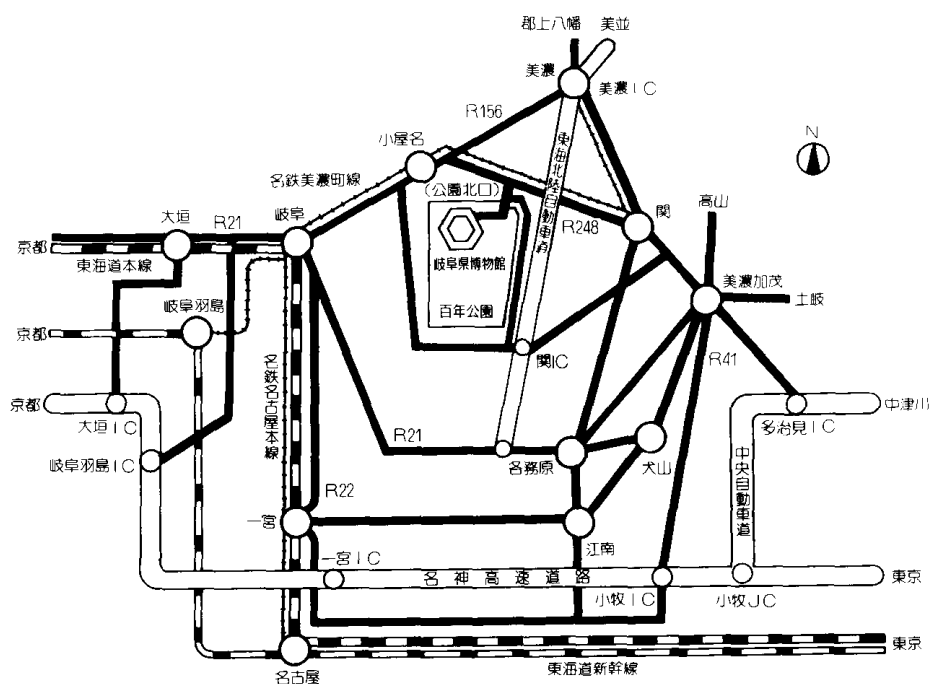
- 開館時間 4月1日～10月31日 9時～16時30分
11月1日～3月31日 9時30分～16時30分
(入館は16時まで)

●入館料

区 分	個 人	団体(20人以上)
一 般	310円	260円
大 学 生	100円	50円
小・中・高	無 料	無 料

※記念展開催中は入館料がかかります。

- 休 館 日 月曜日(月曜日が祝日にあたるときは翌日)
年末年始(12月27日～翌年1月4日)
- 駐 車 場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。
駐車料金…普通(軽)自動車300円、バス800円
- 交 通 名鉄美濃町線 小屋名駅下車 徒歩約15分
岐 阜 バス 小屋名下車 徒歩約15分
自家用車をご利用の場合は、百年公園北口からお入りください。



〒501-32 岐阜県関市小屋名字小洞1989 ☎(0575)28-3111(代表) FAX(0575)28-3110

岐阜県博物館報 第19号

編集発行

岐阜県博物館

平成8年(1996) 4月1日発行

印刷

協同印刷株式会社